

連合

— RENGŌ —



弁理士連合クラブ会報

No. **27**
2017

目 次

巻 頭 言

弁理士連合クラブ幹事長	石川 憲	2
-------------	------	---

ご 挨拶

日本弁理士会会長	伊丹 勝	4
日本弁理士クラブ幹事長	杉村 純子	6
西日本弁理士クラブ幹事長	松村 直都	8
弁理士同友会幹事長	吉村 俊一	10
弁理士クラブ幹事長	瀧澤 匡則	11
日本弁理士会副会長	青山 仁	13
日本弁理士会副会長	齋藤 美晴	15

会 務 報 告

弁理士連合クラブ副幹事長	梶 俊和	17
弁理士連合クラブ副幹事長	船津 暢宏	19
弁理士連合クラブ副幹事長	笹野 拓馬	20
平成28年度弁理士連合クラブのあゆみ		22
総務委員会		24
政策委員会		27
企画委員会		29
調整委員会		30
役員協議委員会		31
研修委員会		33

親睦会報告

第26回連合旅行会・ゴルフ大会	35
-----------------	----

資 料

平成28年度弁理士連合クラブ役員	40
弁理士連合クラブ歴代役員	42
弁理士連合クラブ会則	62
慶弔規則	65
「特別寄付金」を求めるときの運用基準	66

編集後記	68
------	----

連合が一丸となって戦った一年

弁理士連合クラブ幹事長
石川 憲



機関誌「連合」No.27の発行に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

平成28年度の弁理士連合クラブは、昨年度と同様に、「弁理士連合クラブの活動の充実」、「日本弁理士会への強力な支援」、「日本弁理士会の支援のための三派体制の確立」をテーマに掲げて活動しました。「弁理士連合クラブの活動の充実」に関してですが、本年度は、日本弁理士会会長選挙の年であり、当クラブからも永井義久先生が立候補されました。よって、本年度は、会長選挙に向けて、当クラブを構成する弁理士クラブおよび弁理士同友会の先生方が協同し、本年の早い段階から活動をつづけて参りました。また、選挙戦では、電話攻勢のために会議室を用意し、当クラブを構成する弁理士クラブおよび弁理士同友会の先生方に選挙にご協力いただきました。会長選挙の結果は、皆様ご存じの通りで涙を呑む結果となりましたが、両単位クラブが一所懸命に戦いぬいたことで今後の当クラブの結束をより強固にしたのではないかと思います。なお、副会長、常議員、監事につきましては、当クラブ所属の候補者全員が無事当選することができました。

また、長崎の軍艦島ツアーを目玉とした親睦旅行会を実施し、遠方ではありましたが多くの先生方にご参加頂きました。企画委員の先生方には多大なるご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。さらに、当選祝賀会では昨年好評であったサンパダンサーによる余興を本年度も行いました。選挙戦後ということもあり、例年に比べて参加者が減少しま

したが、滞りなく行事を終えることができました。これも偏に会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、深謝申し上げます。

また、財務に関してですが、機関誌発行体制につきましては、昨年を範としての発行費用の削減に努めました。本年は会長選挙があったことも踏まえ親睦旅行会においては、寄付金を特にお願ひすることはしませんでした。選挙戦の影響も踏まえて、次年度の検討課題として申し送りしたいと思います。

「日本弁理士会への強力な支援」については、日本弁理士会委員会等の次年度人事検討委員会における会員の推薦などを中心とする人事面での支援と、政策提言とを例年通りに進めました。また、昨年を踏襲し、弁理士連合クラブの政策検討機能を強化するため、単位クラブの政策委員会に諮った後に、連合政策委員会を開催して意見を集約することとしました。

「三派体制の確立」については、日本弁理士クラブ及び西日本弁理士クラブの旅行会、新旧役員慰労会激励会、選挙当選祝賀会といった定例行事に参加し、また、総会議案等につき意見交換するなどして、三派相互の交流を図りました。

一年を振り返ってみますと、選挙戦に明け暮れた一年であり、選挙戦を通じて、弁理士クラブおよび弁理士同友会が弁理士連合クラブとして一丸となったそんな一年であったと感じております。そして、弁理士クラブおよび弁理士同友会の皆様には、この一年間ご支援を賜ったことに厚くお礼を申し上げます。また、当クラブの活動は、両単位クラブの協力

なくしては成り立たず、今後とも、両単位クラブの協同作業を通じて結束を深めていくことを切に願ってやみません。

最後になりましたが、平成28年度の弁理士連合クラブ副幹事長として、役員協議、調整をご担当頂いた船津暢宏先生、政策、企画、研修をご担当頂いた梶俊和先生、総務、30周年準備をご担当頂いた笹野拓馬先生をはじめとして当クラブの各委員会委員の先生方には、当クラブの運営に多大なるご協力を賜りました。先生方のご尽力がなければ当クラブの活動を進めることは困難でありました。ここに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。平成29年度は、粕川敏夫幹事長の下でより活発な活動が行われることを期待して、私のごあいさつとさせていただきます。



新たな社会ニーズで 未来を切り拓こう！



日本弁理士会会長
伊丹 勝

弁理士連合クラブの会員の皆様には、日頃より日本弁理士会の会務にご協力を頂き、誠に有り難うございます。一昨年の4月に会長に就任して以来、早いもので、残り任期を2ヶ月残すのみとなりました。残り僅かではありますが、引き続き全力で会務に当たる所存です。

会長就任時に、弁理士法に「使命条項」が明記されたことを一つの契機として、弁理士の社会的使命を改めて見つめ直し、その結果として、地方の中小・ベンチャー企業への貢献活動にかなりの注力をしてきた2年間でした。弁理士は、知的財産権の創設というコアな部分の業務により一層の磨きをかけることはもとより、知的財産の創造、活用にも積極的に関与する必要があります。とりわけ地方創生は、国の重点施策であり、まさしく弁理士の貢献が知財活性化に最も効果をもたらすことは明らかなからです。本年度は、特許庁の地域知財活性化行動計画の中にも、日本弁理士会及び弁理士知財キャラバンとの連携が明記されるようになりました。知財総合支援窓口での窓口専門家による相談件数も平成27年度には12,000件を超え、そのうち10,000件について弁理士が対応しています。弁理士知財キャラバンは、既に100件以上の支援依頼があり、40件以上の訪問支援が終了しました。中小企業に知財活用の気付きを与える活動として少しずつ定着してきたと思います。これを一過性としないうちにも、新たに「知的財産経営センター」を設立し、この支援活動を組織的に強化し、弁理士の業務としてより一層根付かせていく必要があると思います。

社会インフラの側面を見ると、IoT、AI、ビッグデータ等の第4次産業革命と呼ばれる産業構造の大きな変化が押し寄せてきています。工場の生産ライン、交通インフラ、サプライチェーン、医療、農業等の分野での革新的変化が期待されています。このようなシステムにおける情報財の保護と利用のバランスを図るため、新たな知財システムの構築が急務です。情報財を上手く活用して新たなイノベーションを創出するためには、情報財を適正に保護する必要があります。情報財の提供者に情報財を抛出することによるメリットがなければならないからです。知的財産の創造、保護、活用が活発化する大きなビジネスチャンスとも言えます。そのためにも、新たな時代に即した知財システムのあり方について積極的に提案していく必要があろうかと思います。

また、欧米を中心として、世界的な保護主義が台頭しつつありますが、世界的なグローバル化の流れは止められないと思います。新輸出大国コンソーシアム、JETROへの派遣等を通じ、日本企業の海外進出を知財の側面で支援することはこれからも重要であると思います。また、海外での権利取得のみならず、海外から日本への出願の呼び込みをすることも必要です。2月には米国企業・代理人向け「ディスカバーIPジャパンカンファレンス」をシアトルとパロアルトで開催し、2月下旬には、ベトナムのハノイでアジアの知財専門家を対象とした「アジアセミナー」を開催します。

一方で、グローバルな知財システムのあり方に関し、本年も第3回のプレジデントミーティングを東

京で開催しました。W I P Oでのe P C Tの議論が進む中、代理人関与の重要性を改めて再認識し、今後も各団体の間で情報を交換し、連携していくことを主旨とする宣言文を採択しました。

時代の大きな変化の中で、知財システムも変化しなければなりませんし、弁理士も新たな社会ニーズに対応したスキルアップを図る必要があると強く実感しております。私の任期は残り僅かとなりましたが、残りの期間もしっかりと仕上げをしていく所存です。弁理士連合クラブの会員の皆様におかれましては、引き続き、ご支援ご協力のほど、宜しくお願いいたします。



知的財産業界・弁理士業界の 活性化への思いは同じ！



日本弁理士クラブ幹事長
杉村 純子

1. はじめに

本年度（平成28年度）の日本弁理士クラブ幹事長を務めています、杉村純子でございます。

弁理士連合クラブの先生方に、貴重な紙面をお借りして、一言、ご挨拶させて戴きます。

弁理士連合クラブの先生には、日頃より、会務活動等におきまして日本弁理士クラブとの協力体制を構築していただいております、大変感謝しております。

日本弁理士会の会員数は1万1千人を越えましたが、現在の変動著しい環境の中での日本弁理士会の活動を支えているのは、紛れも無く、弁理士連合クラブ様、西日本弁理士連合クラブ様、そして日本弁理士クラブの三派ではないかと思っております。

そのような中で、本年度の弁理士連合クラブ幹事長の石川憲先生には、ホットラインを結ばせて戴き、何事につけ、色々とお相談させて戴いております、連携をさせて戴いております。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

2. 第四次産業革命に向けて

最近、よく耳にする言葉として「第4次産業革命」があります。蒸気機関の発明に代表される第1次産業革命、重工業の技術革新や電気の利用による大量生産を実現した第2次産業革命、コンピュータを利用して自動化が進んだ第3次産業革命、そして、現在は、IoT、ビッグデータ、AI（人工知能）などの新技術の活用により新たなビジネスモデルが出現している第4次産業革命の時代と言われています。また、この第4次産業革命を契機にした中小企

業の活性化、新たなベンチャー企業等の出現が期待されているとことでもあります。

我々が担っている知的財産制度は、経済・産業の発展の原動力となる人類の知的創造活動を保護する制度であるため、当然、産業構造が時代とともに変化すれば、制度自体も自ずと変貌していく宿命を背負っています。

現在のこの新たな産業の変革期にこそ、将来を見据え、どのような知的財産制度が必要であり、その中で、弁理士はどのような役割を担っていくべきかを、早急に検討することが重要です。

弁理士連合クラブ様をはじめ三派の会員が互いに知恵を持ち寄り、弁理士業界の活性化・知的財産の価値向上に向け、一緒に悩み、実行を図って頑張っていくことを祈念しています。

3. 女性幹事長として

幸い弁理士業界には男性と女性の差が無く、女性にとっても活動しやすい環境が備わっています。私が日本弁理士クラブの幹事長を務めることができるのも、その表れであると思います。一年間という限られた時間ではありますが、この機会を大切に、女性の幹事長として、少しでも女性らしい気配を感じていただけるような会派の運営を行いたいと思っております。

その一つとして、12月に大井競馬場でのマラソン大会を利用して、初めての駅伝大会を企画しました。最近の若い先生方の間では、ランニングが流行っているそうです。今回は、日本弁理士クラブ内

の5会派による対抗戦で実施しますが、将来は、ゴルフのパテントマスターズや協同組合のテニス大会のように、弁理士連合クラブの先生方も一緒にご参加いただけるようなイベントに育てていければと思っています。

4. 最後に

最後になりましたが、弁理士連合クラブの先生方のご健勝とご発展をお祈りすると共に、今一度、弁理士業界、知的財産業界の発展のため、お互いに手を取り合い、一致団結して頑張っていきたいと願っております。

以上



慌ただしかった申年を振り返って

西日本弁理士クラブ幹事長
松村 直都



平成28年度西日本弁理士クラブ幹事長を務めました松村直都です。貴クラブの機関誌『連合』27号の発行に当たり、ご挨拶の機会を賜りまして、誠にありがとうございます。

昨年（平成28年）は、石川憲幹事長をはじめとする貴クラブの皆様方と、様々な場面で親しく交流させていただくことができました。ここ数年来、会派や本会の活動から疎遠になりがちであった私にとって、これだけ多くの東京の先生方と、時に真剣に、時に楽しく、共に時間を過ごした事はなかったので、実に新鮮であり、また、貴重な示唆や良い意味での刺激をたくさん与えていただきました。この紙面をお借りして、親交のあった皆様方に心よりお礼申し上げます。

個人的にも色々な事があり、慌ただしい1年でしたが、とりわけ、2年に一度の会長選挙を3派の幹事長の一人として経験させていただいたことが、強く印象に残っています。貴クラブの関係者におかれては、年度の初めから幾度となく大阪まで足を運んでいただき、我々西弁のメンバーと活発に意見交換を行ってくださいました。最終的には、会長選挙で貴クラブと袂を分かつことになりましたが、弁理士の未来を少しでも良い方向に導くためにはどうすればよいかを、ここまで真剣に考えて議論できたのは、選挙戦があったからではないかと思います。この議論を無駄にすることなく、今後も3派で協力して、難しい局面に立たされている日本弁理士会を力強く支えていきたいと切に願っております。

それから、各会派の旅行会も実に楽しい経験でし

た。7月に「湯の花温泉」で開催しました西弁の旅行会には、遠方にもかかわらず貴クラブから多数の先生方がご参加下さり、ありがとうございました。深夜まで酒を酌み交わしながら皆さんと色々な話をしましたが、よく覚えているのは、東京と大阪どちらの特許事務所の方が、より安い報酬で仕事を受けているかという議論？です。勿論、結論は出ませんでしたが、改めて弁理士業界の厳しい実情を肌で感じることができました。貴クラブの「嬉野温泉」での旅行会は、選挙結果が出て間もない11月に開催されましたので、少し気が重かったのですが、貴クラブの皆様が温かく迎えて下さり、風情のある温泉地でゆったりと過ごすことができました。石川幹事長とも久しぶりにじっくりお話させていただきましたが、その中で、今回の選挙の投票率の低さが示すように、会務に無関心な会員が多いことが最も懸念され、より多くの会員に会務活動に目を向けてもらい、積極的に関与してもらうための工夫が必要であるというご意見を伺い、その重要性を改めて認識することができました。企業弁理士の増加や特許事務所の経営状況の悪化といった問題もあり、簡単に解決できるものではないですが、会派として貢献できる部分は多いはずですので、地道に取り組んでいきたいと思います。石川先生、ありがとうございました。

平成29年度の西弁は、私よりもずっと若い清水義仁幹事長の下、より一層元気に活動を進めて参りますので、引き続きよろしくお願い致します。ここで、近畿の現況を1つ紹介させていただきますと、

I N P I T（工業所有権情報・研修館）の近畿活動拠点が平成29年10月頃までに大阪市に開設されることが決定しました。この活動拠点には、専門家によるライセンシング・オープン&クローズ戦略・海外展開に関する指導・助言、日本弁理士会・よろず支援拠点・金融機関・大学等への繋ぎのほか、特許庁本体が行う出張面接審査やテレビ面接審査の場とすることを含め、知財活動に対する総合的な支援機能が担わせられるとのことです。近畿支部としましても、I N P I Tと連携協力して、近畿における知財活動のより一層の活性化を図るための準備を進めておりますが、そのためには支部機能のハード面・ソフト面でのさらなる拡充が必要になると考えられます。貴クラブの皆様におかれましても、このような近畿支部の新たな取り組みに是非ご注目いただき、ご理解ご協力いただけますと幸いです。

最後に、貴クラブの益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



「一年を振り返って」



弁理士同友会幹事長
吉村 俊一

1 石川連合幹事長をはじめ船津副幹事長、梶副幹事長、笹野副幹事長におかれましては、一年間大変お疲れ様でした。石川連合幹事長のリーダーシップのもとで一年間ご活躍された連合執行部及び委員の皆さまに対し、弁理士同友会幹事長として大変感謝しております。

2 役員定時選挙では、弁理士同友会所属の候補者全てが当選できました。これもひとえに石川連合幹事長をはじめとした弁理士連合クラブ選挙関係者のご尽力の賜であります。ありがとうございます。一方、会長選挙については、弁理士同友会では、弁理士クラブ所属会員の永井義久先生を会長候補として機関決定させていただきました。選挙戦では、弁理士クラブと共に弁理士連合クラブとして一致団結して戦いました。現在の閉塞した弁理士業界・知財環境を憂い、分析し、弁理士と弁理士業界の未来に向けた政策を掲げて戦った永井先生とサポート部隊の皆さまの熱い思いに感銘を受けました。弁理士クラブの中堅・若手の皆さんは、かなり早い時期から何度も何度も政策を練り上げて取り組まれていました。そうした姿勢を近くで見ていたものとして、約500票差という僅差での選挙結果は非常に残念でした。しかし、政策立案過程で得た様々な経験は、今後必ず活かされていくものと思いますし、日本弁理士会の未来を期待させるものを感じました。

日本弁理士会は、弁理士の全てが会員として加入する強制加入団体であり、日本弁理士会が行う

様々な事業は、我々弁理士及び弁理士業界の未来のため、さらには日本国の産業経済の発展のための事業でなければなりません。今回の選挙戦で掲げた政策は現在の閉塞した弁理士業界・知財環境を憂いて緻密に分析して提案された政策であり、今後の弁理士会の事業活動に活かされることを期待しています。

3 親睦旅行会二日目の観光は、世界文化遺産の軍艦島への観光でした。二日目はいつもゴルフ大会に参加していた私にとっては会長選挙とともに忘れることができないものになりました。旅行会の手配時期が選挙戦の真っ最中であったこともあり、担当された企画委員会の先生方は大変であったと思いますが、とても印象深い良い旅行会でした。関係した皆さまに感謝申し上げます。

4 最後になりましたが、石川連合幹事長はじめ関係者の皆さま、本当に一年間ありがとうございます。忘れられない記憶に残る1年でした。

知財業界に対する危機意識の共有



弁理士クラブ幹事長
瀧澤 匡則

平成28年度弁理士クラブ幹事長を務めました瀧澤匡則です。機関誌「連合」の発刊に際し、ひとことご挨拶申し上げます。

本年度は、石川憲幹事長を始めとする弁理士連合クラブの先生方に特にお世話になった1年でした。先生方のご協力無しにはこの1年間を乗り越えることができなかったと思っています。心より感謝申し上げます。

今年度の活動としましては、何よりも弁理士クラブより会長候補者として擁立いたしました永井義久会員を弁理士連合クラブにおいてもご推薦いただき、選挙活動を行ったことでした。結果としては残念な結果となりましたが、本気で選挙活動に取り組むことにより現在の知財業界の問題点が浮き彫りとなりましたし、これらの問題点を解決すべく若手をも巻き込んで政策の検討を行うことにより、現在の知財業界に対して問題意識や危機意識を持つ会員を増やすことができたのではないかと感じております。これらの活動を行うに当たり、弁理士連合クラブの先生方には、本当に大きなお力添えをいただきました。

一方で、今回の選挙活動において痛切に感じたことは、弁理士会というのは弁理士自らが運営を行っていかねばならず、その方向性を決める会長選挙がいかに重要であるかということを理解されていない弁理士の数が非常に多いということでした。このことは、約50%という投票率の低さが如実に物語っています。近年は、出願件数が減少し出願の単価も下がっており、我々の専権業務は年々厳しくなる一方でございます。このような状況のなか、知財

業界を活性化させるために我々は何をすべきなのか、新たな弁理士の飯のタネとは何なのか、弁理士会の行わなければいけないことというのは年々増加しております。しかしながら、一部の会員が負荷を増やすことによりこれらに対応しているというのが現状であり、このような場当たりの対処方法では遠くないうちに限界を迎えるものと考えられます。今年1年を通して感じた今後の課題は、知財業界の現状に対する問題意識を弁理士全体で共有し、如何にして意識の低い会員の意識を高めこれらの人材を取り込むのかということでした。

選挙に関する話が続き恐縮ではございますが、弁理士クラブより擁立いたしました副会長候補者の梶俊和会員、監事候補者の渡邊喜平会員、常議員候補者の川久保新一会員、遠藤朱砂会員、橘祐史会員に対して弁理士連合クラブでもご推薦と力強いご支援を賜り、おかげさまで当選を果たすことができました。弁理士クラブ幹事長として厚く感謝申し上げます。また、当選した各会員が弁理士会で活躍するに当たりまして、来年度以降も弁理士連合クラブからの多大なご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、吉村俊一幹事長を始め弁理士同友会の先生方には、この1年間大変なご協力をいただきました。当クラブの力不足により、会長選挙は残念な結果となりましたが、今回の選挙活動によって弁理士同友会と弁理士クラブとの結束がさらに深まったということは、今回の選挙で得た大きな果実であったものと信じております。先生方からのご支援、ご協

力に対して深く感謝申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。



日本弁理士会副会長としての 1年間を振り返って



日本弁理士会副会長
青山 仁

弁理士連合クラブの推薦を頂戴し、平成28年度日本弁理士会副会長を務めております青山仁です。私の任期も残すところ僅かとなりましたが、副会長就任から今日までを振り返りますと、まさに「あっ」という間でした。

日本弁理会における私の主な担当は、中央知的財産研究所、綱紀委員会、審査委員会、不服審議委員会、紛議調停委員会、継続研修履修状況管理委員会、ADR推進機構であり、担当支部は北陸支部です。

私の主な担当は上記のとおりですが、まずは弁理士会全体についてこの1年を振り返ってみたいと思います。

平成28年度の弁理士会執行部は、前年度から実施している各種施策を検証し、その結果をフィードバックして確実な成果に結び付けることを基本方針の一つに掲げて活動して参りました。この結果、平成27年度に立ち上げられた「弁理士知財キャラバン」をはじめとする中小・ベンチャー企業に対する知財支援活動は大きな成果を上げており、約100件の支援依頼があり、うち40件前後について訪問支援を完了しており、現在も訪問支援を継続して実施中です。

また、弁理士や知的財産制度に対する認知度を高めるべく公報活動にも注力し、テレビやラジオを利用した戦略的かつ積極的な公報活動を展開しています。弁理士会提供のテレビ番組「PAT（パット）やってみた！」やラジオ番組「こちら知的財産相談室／おしえて！はっぴょん」は、弁理会ホームペー

ジからも視聴できます。まだ視聴されていない方は是非とも視聴下さい。

国際的な活動に関しては、今年2月に、「ディスカバーIPジャパンセミナー」と題し、米国の企業や代理人を対象とした外内出願誘致活動をシアトルとパロアルトで開催します。また、2年度一度の割合で開催しているアジアセミナーをベトナム（ハノイ）で開催します。

さらに、昨年に引き続き、本年もプレジデントミーティングを開催しました。プレジデントミーティングは今回が第3回となりますが、過去2回のプレジデントミーティングでは、知財システムのグローバル化が急速に進行する中、各国弁理士団体等が共通の問題意識を持ち、互いに連携していくことの重要性が確認されています。

さて、私の担当に戻りまして、主な附属機関、委員会の活動について振り返ります。

〔中央知的財産研究所〕

中央知的財産研究所は、一昨年創立20周年を迎えました。この間、当研究所は、知的財産に関する様々な研究テーマについて研究し、その成果を弁理士会の内外に発信してきました。今年度は、「損害賠償論－更なる研究－」、「知的財産権訴訟における証拠」、「新商標制度の総合的検討」、「特許クレーム解釈と記載要件」の各研究テーマが設定され、各研究部会において活発に研究が行われております。

〔綱紀委員会〕

担当副会長に就任し、予想以上に多くの処分請求

事案があることに驚いた一方、当委員会の委員が中立・公平な立場から客観的な事実認定に努めている姿に敬服しました。弁理士法に使命条項が追加され、我々弁理士にはこれまでも増して高い倫理観が求められています。処分請求件数は増加傾向にあります。そこで、昨年12月の臨時総会に当委員会の定数を増やすための例規改正案を上程し、ご承認いただきました。

〔審査委員会〕

綱紀委員会が事実認定を主な職務とするのに対し、当委員会は、事実認定に加えて処分内容についても審議・決定する必要がある、大変責任の重い職務を担っております。処分請求件数の増加に伴い、当委員会に送致される案件数も増加しております。

〔不服審議委員会〕

会員に対する処分請求を行った者であって、当該会員に会則第49条第1項に該当する事実がない旨の通知を受けた処分請求人は、その決定に対して不服を申し立てることができます（会則第51条の2第1項）。会則第49条第1項に該当するか否かの決定は、綱紀委員会による調査、審査委員会における審議を経て行われますので、この決定に対する不服申立て件数は決して多くはありませんが、去年は数件の不服申立てがありました。

〔継続研修履修状況管理委員会〕

継続研修義務不履行者に対する処分の実行性を高め、また、処分手続きの迅速化を実現すべく、当委員会に対して幾つかの諮問を行い、答申を得ました。今後は、当委員会の答申結果を踏まえて、継続研修義務不履行者に対する処分制度の改正について検討する予定です。

〔ADR推進機構〕

当委員会（機構）は、日本弁理士会と日本弁護士連合会が共同で運営する「日本知的財産仲裁センター」の事業を支援するために日本弁理士会内に設けられた委員会です。本年度は、諮問事項や委嘱事項に応じて5つの部会が編成され、活発な活動が行われています。

〔北陸支部〕

北陸支部は、新潟、富山、石川、福井の北陸4県を所管し、当該地域における知的財産権制度の普

及・啓発活動を担っております。本年度は、開口宗昭支部長の下、非常に活発に活動していただいております。また、去年は、支部サミットが北陸支部傘下の石川県金沢市で開催され、全国9支部の支部長・副支部長等が集まり意見交換や情報交換が活発に行われました。

以上、この1年間の活動を簡単に振り返りましたが、世界情勢に目を向けると、イギリスのEU離脱や米国次期大統領へのトランプ氏選出等といった想定外の出来事を受けて先が見通せない状況が続いています。一例を挙げれば、TPP関連法には知的財産に関する法令も多数含まれておりますが、これらの法令の施行にはTPPの日本における発効が条件となる一方、TPPが予定通りに効力を生じるか否かは極めて怪しい状況です。

しかしながら、TPPの行方はともかく、知財システムのグローバル化の流れが益々加速することは確実であると思います。また、第4次産業革命を契機に、知財保護の在り方が問われています。

我々弁理士は、世界情勢や日本の産業構造の変化に即応するのはもちろんのこと、それらの変化が知財システムに与える影響を先読みし、新たな知財システムの構築を先導する使命を負っており、この使命を果たすことが弁理士業界の維持発展につながるのだと考えております。このような考えの下、任期満了日まで気を緩めることなく会務に励んで参りますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

1年間を振り返って



日本弁理士会副会長
齋藤 美晴

弁理士連合クラブ所属の副会長として「青山仁」副会長とともに、平成28年度の日本弁理士会副会長を務めさせて頂いております。

弁理士連合クラブ会員の皆様には、日頃からご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。小職の任期も余すところ僅かになりましたので、1年間を振り返ってご挨拶とさせていただきます。

執行役員会が発足して直ぐ平成28年4月14日、16日に「熊本地震」が発生し、「災害対策本部」を立ち上げました。「災害対策本部」では会長とともに議長を勤めさせて頂き、九州に在住又は事務所のある会員の安否確認、被害の状況の把握に努めたところです。大きな災害に遭われた会員が多くおられるなかでも、全員の安否確認がとれるとともに、事務所業務を中止せざるをえなかった会員はなく、安堵した次第です。熊本県、大分県への救援金及び被災会員への救援金の募集では、多数の会員から救援金を頂き、感謝申し上げる次第です。

今年度の執行役員会は、平成27年度に引き続き「弁理士知財キャラバン」をはじめとする中小企業や地方企業への支援に力を入れてきました。その甲斐もあって累積100件を超える支援依頼が会に寄せられており、支援員が手分けしてその半数以上に対応しています。ユーザ特に中小企業、地方の企業からは弁理士への期待も高まっていると感じています。

また、本会には「知的財産価値評価推進セン

ター」、「知財経営コンサルティング委員会」、「知的財産活用推進委員会」、「キャラバン統合ワーキンググループ」があります。これらは発足当初それなりの目的や棲み分けで運営されてきましたが、次第に類似する重複活動が出てきましたし、会としても経営面から知財支援を行う必要性から、それらを統合して「知的財産経営センター」を創設すべく知財経営センターワーキンググループを立ち上げ、例規改正を含めて検討しております。具体案を次回の常議員会および臨時総会に諮ることになっています。人員や予算規模が大きく、複数機関の単なる寄せ集めに終わらせない工夫が求められます。

さらに、今年度中頃には、以前からの懸案事項である外弁と日本弁理士による混合法人（いわゆるB法人）の議論が始まり、常議員会からも意見を聴取しております。数年後の法改正に備え、その議論を踏まえて外部の調査コンサルタント機関に調査や対応策の検討を依頼しております。次年度は本格的な検討が期待されます。B法人が認められると、B法人による日本国特許庁への特許出願の代理が可能となり、弁理士の業務に対する影響は大きなものとなります。

また、今年度、外部から依頼人からの預かり金の明確な区分管理について指摘を受けており、コンプライアンス委員会および執行役員会で議論しています。次回の常議員会および臨時総会に例規改正案等を諮ることになると思います。

さらにまた、今年度は、特許庁から情報公開のあり方について、縷々、指摘や指導があった年度です。具体的には、弁理士ナビ（英語版を含む）での公開情報につき、掲載順序、掲載内容（特に処分公表や業務しない根拠）につき改善を求められ、会員の情報保護、情報開示に伴う実効性、費用対効果の観点から可能な限り対応しました。3月頃から弁理士ナビの表示が一部変わります。

ところで、小職は新規弁理士登録、付記登録及び抹消登録、特許業務法人登録等を担当しており、毎週1回の執行役員会ではそれらの審査、決済をしています。

極々個人的な見解ですが、登録申請時の申請書、履歴書その他の添付書類に、誤字・脱字、間違いによる訂正が多いことが心配です。

例えば、住民票を添付しているのに自己の住所（丁目、番、号）が正確ではない、勤務する会社名が前（株）と後（株）を誤っている、学歴で卒業か修了か混同していると言った事例があります。事務局の指摘で、1頁に3、4箇所の訂正箇所があっても見苦しくても提出する例があります。

弁理士は「正確な書面を作ってなんぼ」の世界ですし、品位も要求されています。もし、就職面接用の申請書や履歴書等であれば、もっと丁寧に作成、提出すると思います。常識面から一部の会員の資質を心配しています。

小職の主な担当会務としては、防災会議、知的財産価値評価推進センター、特許制度運用協議委員会、情報企画委員会、技術標準委員会、パテントコンテスト委員会および四国支部がありますが、詳細なご報告は電子フォーラムをご覧くださいと思います。

むすびに

残す期間、副会長としての職責を果たす所存でございますので、最後までご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学びの多かった一年間

弁理士連合クラブ副幹事長 梶 俊和



1. はじめに

石川憲幹事長のもと、平成28年度弁理士連合クラブ副幹事長を仰せつかっております梶俊和です。今年度、政策委員会、企画委員会、研修委員会を担当致しました。今年は、弁理士会会長選挙の年であり、我々連合クラブ選出の候補者と日本弁理士クラブ選出の候補者との激しい一騎打ちとなりました。結果についてはここでは触れませんが、真剣勝負の会長選というものを初めて体験する身としては、選挙戦略立案、選挙政策策定、選挙運動実行の各局面において、非常に大変ではあったものの種々勉強になったと実感しております。また、連合クラブとしての結束や若手の台頭を目の当たりにし、とても心強く感じもしました。一方、選挙の影響が旅行会の企画運営にも波及し、苦労した一年でした。

2. 政策委員会

政策委員長小林保先生を始めとする政策委員の方々のご協力で、適切なタイミングで日本弁理士会に対して連合クラブとしての意見書を提出できました。この場を借りてお礼を申し上げます。種々の政策課題について数回の委員会開催及びメール会議により効率的な意見収集及び議論を進めて頂きましたが、大きなトピックとしては、やはり外部役員（外部常議員）問題と外弁混合法人（B法人）問題でした。これらについて、連合クラブとしては、原則としては導入について反対意見を表明しつつ、趣旨を質したり、例規上の不整合を確認したりしながら、たとえ導入するにしてもよりよい導入のされ方、運

用のされ方を求めました。委員会や議案説明会への政策委員の出席率がもう少し高まれば、連合クラブの意見のまとまりも更により本会会務へも更に好影響が及ぶものと思います。小林委員長へ負担が偏ったことについてはお詫び申し上げます。

3. 企画委員会

企画委員会としての会務は、①連合クラブHPの内容更新及び維持運営、②他会派ご来賓を招いての連合クラブ旅行会の企画及び開催、③機関誌「連合」（本誌）の発行、の大きく3つです。とりわけ比重の大きいのが連合旅行会の開催で、今年は石川幹事長の号令と共に例年にない遠方の旅行会、すなわち「長崎軍艦島ツアー」を観光の目玉とする「佐賀嬉野温泉和多屋別荘」での開催となりました。詳細は企画委員会報告に譲りますが、結果的には遠方の地で「美肌の湯」と言われる非常にぬめり成分の多い温泉とお料理を存分に楽しめました。日本弁理士クラブ、西日本弁理士クラブを始めとするご来賓の方々にも充分お楽しみ頂けたのではないかと思います。今回は更に九州支部からのご来賓（副支部長の松尾憲一郎先生と羽立幸司先生）にもご参加頂き、羽立先生には研修講師をお願い致しました。

今年度の旅行会は諸事情を考慮し、例年の9月開催でなく11月開催としました。4月には熊本地震が発生し、また、旅行会直前には博多で道路の大規模陥没が発生するなど、冷や汗をかきました。しかし、何より我々が慌てたのが、会長選挙の影響でご来賓の人数が例年になく大幅減となったことでした。

急遽多くの会員に電話で参加をお願いし、また、旅行会社や宿にも人数調整を入れ、例年よりは少ないものの何とか60名弱規模での開催にこぎつけたことは、企画委員長須山英明先生、副委員長吉田倫太郎先生を始めとする企画委員の皆さんのご協力のおかげです。とりわけ吉田先生には、急遽仕切り役を押し付けた形になってしまい申し訳なく思いますが、最後までそつなくこなして頂いたことを本当に感謝致します。会員の日頃の行いの成果か、旅行会当日は非常に好天に恵まれ、上陸確率1／3と言われる軍艦島への船舶ツアーも、穏やかな波の中順調に実現することができました。交通機関がほぼ空路に限られ、足の確保も難しく参加者への金銭的負担も強い旅行会ではありましたが、多くの方から「印象に残る旅行会だった」とのコメントを頂けたことは担当副幹事長として嬉しい限りです。

なお、①連合クラブHPの内容更新及び維持運営、③機関誌「連合」の発行については、例年通り粛々と進めました。機関誌「連合」については、2年前より紙媒体での発行を廃止し、HP上での掲載に留め、費用削減に貢献しております。

4. 研修委員会

研修委員会の主業務は、連合クラブ旅行会において併催される研修会の企画及び実行です。今年は、九州支部副支部長の羽立幸司先生に「九州での弁理士業の実情と遣り甲斐～産学官連携やベンチャー・中小企業支援等を通じて～」と題する研修を行って頂きました。九州地区での特許・商標出願状況、出願企業数などの現況から、九州支部の歴史、九州での弁理士業の多様性など、都内弁理士にとっては意外な話が多く大変興味深く聞かせて頂きました。羽立先生にはそのまま旅館での宴会にもご参加頂きました。なお、研修の企画及び実行については、研修委員長山田武史先生に完全に任せっきりで、私はほとんどノータッチでした。講師の選定からテーマ決め、当日の運営まで山田先生の完璧な会務運営能力には脱帽です。

5. さいごに

慣れない中での連合クラブ副幹事長職でしたが、何とかみなさんのご協力を得て最後までやり通せたことを嬉しく思います。至らない点が多々あったかと思いますが、ご容赦頂きたく、この場を借りてお詫びを申し上げます。そして、幹事長として常に良きアドバイスと判断を頂いた石川憲先生、副幹事長として共に会務にご協力頂いた笹野拓馬先生、船津暢宏先生には心より御礼を申し上げます。一年間ありがとうございました。

政策検討で日本弁理士会に貢献を！



弁理士連合クラブ副幹事長
船津 暢宏

平成28年度、弁理士連合クラブの石川憲幹事長の下、副幹事長を務めさせて頂きました船津暢宏です。機関誌の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

私は、弁理士クラブから選出され、役員協議委員会と調整委員会を担当させて頂きました。

本年度は、日本弁理士会役員定時選挙においては会長選挙の年で、調整委員会、役員協議委員会を開催して、弁理士クラブ選出の永井義久会員を会長候補に擁立しました。

会長候補者の永井会員の政策は、弁理士業界の危機的な状況を分析し、大企業及び中小企業の知財活動を活性化するために、「新時代の弁理士像の確立」「知財による成長企業の創出」「日本弁理士会の組織改革」の3つの戦略を軸とした「知財再興計画」というもので、弁理士連合クラブの会員の皆様には政策について貴重なご意見を頂戴し、さらに多くの先生方に共感頂き、誠にありがとうございました。

山川茂樹役員協議委員長の下、上記政策に賛同頂ける弁理士に投票を呼び掛ける選挙運動を繰り広げましたが、会長選挙は力及ばず、大変残念な結果になりました。

選挙運動におきまして、多大なるご協力を頂きました会員の皆様に、感謝申し上げますと共に、改めて御礼申し上げます。

また、会長以外の選挙では無投票となり、副会長

候補の梶俊和会員及び本田敦会員、監事候補の渡邊喜平会員、常議員候補の古谷史旺会員、川久保新一会員、関昌充会員、遠藤朱砂会員、笹野拓馬会員及び橘祐史会員が、お陰さまで無事当選を果たすことができました。

そして、11月22日に当選祝賀会をマリオット銀座東武ホテルで開催しました。昨年度に比べて来賓の先生方が少ない状況でしたが、多くの会員にご参加頂き、サンパチームのワイルドなダンスで大いに盛り上がり、潮太郎先生、徳増あゆみ先生の司会によって滞りなく祝賀会を終えることができました。出席頂きました先生方、祝賀会の進行に協力頂きました先生方に改めて御礼申し上げます。

会長選挙を通して、弁理士業界の厳しい状況下では、日本弁理士会で実行される政策の重要性を考えさせられました。弁理士連合クラブとして、弁理士の仕事の価値を高め、弁理士の活動の場を広げるような政策検討を行うことで、日本弁理士会に貢献する役目を担っていると実感しました。

最後になりましたが、石川幹事長、笹野副幹事長、梶副幹事長、役員協議委員会の山川委員長、調整委員会の長内委員長、各委員会の先生方、並びに本年度の弁理士連合クラブの運営にご協力を賜りました会員の皆様に深く御礼申し上げます。

一年を振り返って

弁理士連合クラブ副幹事長 笹野 拓馬



平成28年度、石川憲幹事長の下、弁理士連合クラブの副幹事長を務めさせていただきました、笹野拓馬と申します。私は、弁理士同友会選出の副幹事長として、総務委員会と30周年記念事業準備委員会を担当させていただきました。

本年度の総務委員会は、委員長に中川裕幸先生（弁ク）、会計担当の副委員長には笹川拓先生（同友）、委員に佐々木まどか先生（弁ク）、高橋堅先生（弁ク）、松本直子先生（同友）に就任していただきました。

総務は、幹事会・総会の設営・運営、会議室や祝電・弔電等の手配、会計処理など裏方としての仕事为主になります。総務を担当することになりましたので、ものは試しになんでもやってみようとの私の勝手な思いから、日々の細々とした雑務はなんでも経験させていただき、手が回らないところについては、委員長をはじめ、委員の先生方にフォローしていただきました。総務の活動を通じて、会務の活動を下支えする総務の大切さや苦労を実感でき、貴重な経験をさせていただきましたが、願わくは総会や懇親会その他の行事ごとに会員の先生方にもう少し積極的にご参加いただきたかったと思うところです。会計につきましては、担当の笹川先生に正確かつ迅速に漏れのない処理を行っていただきました。

総務の活動を滞りなく進めることができたのは委員長をはじめ委員の先生方のご協力の賜物であり、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

30周年記念事業準備委員会は、来年、弁理士連合クラブが創立30周年を迎えることから、その名

のとおり、記念事業を実行するための準備をする委員会になります。

主な役割は、次年度に立ち上がる30周年記念事業実行委員会が円滑に作業を進められるように、開催日および開催場所の決定、予算、当日までのスケジュールや招待者の確認になります。

委員会の人員は、委員長に粕川敏夫先生（同友）、委員には、20周年記念事業の際の実行委員長である永井義久先生（弁ク）、さらに、古谷史旺先生（同友）、永岡重幸先生（弁ク）と経験豊富な先生方に就任していただきました。

委員会の活動は、最初の委員会で、大まかな予算と事業規模を確認し、その上で開催候補日と開催場所となるホテルの選定を行いました。その後は、メール会議で内容を詰めていきました。

実際の開催日とホテルの決定に当たっては、ほぼ委員長の粕川先生に一任する形となってしまいましたが、委員長のご尽力により、無事に開催日と開催ホテルを決定することができました。当日までのスケジュールの確認等につきましては、20周年記念事業の資料を可能な限り収集し、資料の整理を行いました。これでどうにか次年度実行委員会が円滑に事業を進められる最低限の準備はできたのではないかと考えております。

最後になりますが、弁理士連合クラブの副幹事長としての役割を果たすことができたのは、石川憲幹事長、船津暢宏副幹事長、梶俊和副幹事長、総務委員会の中川裕幸委員長、30周年記念事業準備委員会の粕川敏夫委員長の他、各委員会の先生方並

びに弁理士連合クラブの会員の方々のご協力があったからであり、ここに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成28年度弁理士連合クラブのあゆみ

(2016.1.1 ~ 2016.12.31)

- 平成28年 1月 7日 本会執行部からの三派向け説明会の事前説明会
B 法人制度、外部役員登用
- 1月18日 第1回正副幹事長会
- 2月 4日 第1回幹事会、第1回臨時総会
平成28年度日本弁理士会役員(副会長)候補予定者の推薦の件
- 2月15日 第2回正副幹事長会
- 2月24日 第1回調整委員会
- 2月25日 第2回幹事会、第1回定時総会、懇親会
事業報告、決算、事業計画、予算、人事報告、等
- 3月 2日 日本弁理士政治連盟役員との懇談会
- 3月11日 東海協議会／慰労・激励会
西日本弁理士クラブ／慰労・激励会
- 3月16日 日本弁理士会臨時総会
- 3月17日 第1回政策委員会
- 3月29日 新旧正副企画委員長会議
- 4月14日 第2回政策委員会（メール会議）
- 4月18日 第2回常議員会議案説明会
- 5月12日 第1回30周年記念事業準備委員会
開催日、会場、出し物、招待者、今後のスケジュールの検討
- 5月23日 第3回幹事会、第2回臨時総会
平成29年度日本弁理士会役員(会長)候補予定者の推薦の件
- 5月27日 日本弁理士会定期総会
- 6月 6日 西日本弁理士クラブ向け政策検討会
- 6月 8日 第1回企画委員会
- 6月11日 日本弁理士クラブ旅行会（静岡・焼津）
- 6月25日 旅行会下見
- 7月 1日 会合
- 7月 5日 第2回企画委員会
- 7月 9日 西日本弁理士クラブ旅行会（京都・亀岡）
- 7月13日 政策研究集会
- 7月19日 西日本弁理士クラブ向け政策説明会（大阪）
会長候補予定者の政策についてプレゼンテーション

8月 1日 政策検討会
 8月 5日 西日本弁理士クラブ対応検討会
 西日本弁理士クラブの方針への対応を検討
 選挙対策打合せ
 8月 9日 西日本弁理士クラブ向け会合
 8月22日 第1回役員協議委員会
 8月23日 本会執行部からの三派説明会
 処分前公表制度、B法人制度、知的財産経営センター設立、
 会務負担平準化の施策
 9月 1日 第3回政策委員会
 9月 5日 第2回役員協議委員会
 9月 6日 第4回幹事会、第2回定時総会
 平成29年度日本弁理士会役員（副会長・監事・常議員）
 候補予定者の推薦の件
 9月12日 立候補受付・選挙運動開始
 9月16日 候補者確定
 政策委員会
 三派説明会議案についての意見書提出
 9月30日 選挙運動終了
 10月20日 当選人確定
 10月25日 意見交換会
 弁理士連合クラブ向け役員会説明会（政策委員会出席）
 処分前公表について
 11月 1日 第3回役員協議委員会
 11月12日 弁理士連合クラブ旅行会・研修会（佐賀・嬉野温泉）
 11月16日 本会執行部からの三派説明会
 第3回常議員会の議案説明
 11月22日 第5回幹事会、第3回臨時総会
 次年度弁理士連合クラブ役員人事の承認の件
 弁理士連合クラブ当選祝賀会
 11月30日 日本弁理士クラブ当選祝賀会
 12月20日 弁理士連合クラブの新旧役員引き継ぎ
 12月21日 日本弁理士会臨時総会

総務委員会

委員長 中川裕幸

1. 委員会の構成

委員長 中川裕幸（弁ク）
副委員長 笹川拓（同友）
委員 佐々木まどか（弁ク）
高橋堅（弁ク）
松本直子（同友）
担当副幹事長 笹野拓馬（同友）

2. 職務権限

会員の連絡及び会議場所の設営、会議の開催に関する事項、その他、他の委員会の職務に属しない事項を行う。

3. 諮問事項

- (1) 総会及び幹事会その他、他の委員会以外の会議の会場の設営、開催の通知、及び会議の運営、委員会及び委員への連絡及び会計に関する事項の審議及びその実行
- (2) 特に定時総会の開催時期を中心として本会の会則等改正の審議及び答申

4. 活動報告

(1) 第1回幹事会／第1回臨時総会

開催日時 平成28年2月4日（木）
幹事会 18：00～／臨時総会 18：30～
場所 弁理士会館
議案

- ①第1号議案(趣旨説明：石川 憲 幹事長)
平成28年度日本弁理士会役員（副会長）候補予定者の推薦について承認を求める件
- ②報告事項(報告者：石川 憲 幹事長)
平成28年度弁理士連合クラブ役員等選任に関する報告
- ③その他
役員選挙候補予定者（副会長）からの挨拶

(2) 第2回幹事会／第1回定時総会

開催日時 平成28年2月25日（木）
幹事会 18：00～／定時総会 18：30～
場所 弁理士会館
議案

- ①第1号議案(趣旨説明：石川 憲 幹事長)
平成27年度弁理士連合クラブ事業報告の承認を求める件
- ②第2号議案(趣旨説明：船津 暢宏 副幹事長)
平成27年度弁理士連合クラブ会計報告の承認を求める件
- ③第3号議案(趣旨説明：石川 憲 幹事長)
平成28年度弁理士連合クラブ事業計画の承認を求める件
- ④第4号議案(趣旨説明：梶 俊和 副幹事長)
平成28年度弁理士連合クラブ予算の承認を求める件
- ⑤報告事項(報告者：石川 憲 幹事長)
平成28年度弁理士連合クラブ役員、委員等選任に関する報告
- ⑥その他



(3) 懇親会

開催日時 平成28年2月25日 (木)

19:15~21:00

場 所 霞山会館

司 会 総務委員長 中川 裕幸

式 次 第

①開会の辞 船津 暢宏 (副幹事長)

②幹事長挨拶 石川 憲 (幹事長)

③ご挨拶

日本弁理士会副会長 粕川 敏夫 殿

④乾杯

相談役 永井 義久 殿

⑤山本晃司前幹事長への感謝状・記念品の贈呈

石川 憲 (幹事長)

⑥お礼の辞

平成27年度連合幹事長

山本 晃司 殿

⑦ご挨拶

弁理士同友会幹事長 吉村 俊一 殿

弁理士クラブ幹事長 瀧澤 匡則 殿

<歓談>

⑧日本弁理士会執行役員会の会務報告

日本弁理士会副会長 塩野谷英城 殿

⑨当選ご挨拶

日本弁理士会次年度副会長

青山 仁 殿

⑩閉会の辞

梶 俊和 (副幹事長)



(4) 第3回幹事会／第2回臨時総会

開催日時 平成28年5月23日（月）

幹事会 18：00～／臨時総会 18：30～

場 所 弁理士会館

議 案

①第1号議案（趣旨説明：石川 憲 幹事長）

平成29年度日本弁理士会役員選挙会長候補予定者の推薦について承認を求める件

(5) 第4回幹事会／第2回定時総会

開催日時 平成28年9月6日（火）

幹事会 18：00～／定時総会 18：30～

場 所 商工会館

議 案

①第1号議案（趣旨説明：船津 暢宏 副幹事長）

平成29年度日本弁理士会役員（副会長・監事・常議員）候補予定者の推薦について承認を求める件

②報告事項1（報告者：笹野 拓馬 副幹事長）

平成28年度弁理士連合クラブ会務中間報告

③報告事項2（報告者：笹野 拓馬 副幹事長）

平成28年度弁理士連合クラブ会計中間報告

④その他

役員選挙候補予定者（副会長・監事・常議員）からの挨拶

(6) 第5回幹事会／第3回臨時総会

開催日時 平成28年11月22日（火）

幹事会 17：00～／臨時総会 17：30～

場 所 銀座キレイが丘（貸会議室）

議 案

①第1号議案（趣旨説明：石川 憲 幹事長）

平成29年度弁理士連合クラブ役員の選任について承認を求める件

②報告事項（報告者：笹野 拓馬 副幹事長）

平成28年度弁理士連合クラブ会計・会務報告

以上

政 策 委 員 会

委員長 小 林 保

1. 委員会の構成（16名）

委員長 小 林 保（同友）

副委員長 小田原 敬 一（弁ク）

委 員

（1）弁理士同友会 委員（6名）

竹 内 裕

古 谷 史 旺

井 澤 幹

田 辺 恵

関 昌 充

高 下 雅 弘

（2）弁理士クラブ 委員（10名）

伊 藤 進

今 掘 克 彦

小 国 泰 弘

須 山 英 明

岡 田 希 子

岩 田 耕 一

奥 川 勝 利

富 澤 正

永 岡 重 幸

山 本 晃 司

担当副幹事長 梶 俊 和（弁ク）

楽部ビル14階 14-A B会議室において『三派向け説明会』が開催され、この説明会における議題に対して意見を求められた。

議題としては、

1. 外部役員制度について
2. 処分前公表制度について
3. 外国法事務弁護士のB法人（混合法人）について
4. 知的財産経営センター（仮称）の設立について
5. 会員間の会務負担の平準化に向けた施策について

の5つについて政策委員会で検討がなされた。

これらの検討依頼に対して、以下のような意見書の提出を行った。

（1）外部役員制度について

執行部から本年初めごろに一度提案があり、説明がなされたが、未だに「なぜ今必要なのか」が明確になっていない。また、既存の弁理士会法体系における検討が十分になされた形跡が見受けられず、現行の制度における実現が可能か否かについて再考する必要がある。さらに、今回提案されている外部役員制度の導入手法についても検討すべきである。

（2）処分前公表制度について

「処分前公表制度について」は、検討した結果、審議が十分に尽くされているとは考え難く、見送るべきである。

（3）外国法事務弁護士のB法人（混合法人）について

外国法事務弁護士のB法人（混合法人）制度の導入を白紙に戻すことが最善ではあるが、日本弁理士会が現段階でB法人制度の導入を反対しても、既に検討会での審議が一定程度進んでいる現状を

2. 職務権限

政策委員会は、日本弁理士会の会務執行上の諸政策についての調査、研究に関する事項を行う。

3. 諮問事項

- （1）常議員会、総会議案への対応
- （2）本会からの意見募集への対応
- （3）中長期的テーマの継続検討

4. 活動報告

8月23日（火）午後6時～午後8時頃、東京俱

考えると、その実現可能性は極めて低いと言わざるを得ない。そこで、日本弁理士会としては、外国法事務弁護士のB法人（混合法人）制度の導入に伴う問題点を明確にして反対の立場を維持し、導入するにしても同制度が導入された場合の弁理士への影響を最小限にする措置を採ることを要望すべきと考える。

また、今回の外国法事務弁護士のB法人（混合法人）制度の導入によって問題が生じたのは、特許業務法人に弁理士の業務と同一の業務を認めていることに由来している。したがって、弁理士法で認めている特許業務法人の制度を廃止することによって外国法事務弁護士のB法人（混合法人）制度が導入されても外国法事務弁護士のB法人（混合法人）が弁理士の業務を行うことがなくなり、弁理士への影響を払拭することができると考える。

(4) 知的財産経営センター（仮称）の設立について
格別の異論はない。

(5) 会員間の会務負担の平準化に向けた施策について

趣旨には賛成である。会務を会員の皆様に等しく負担して頂くに当たっては、「会長の推薦」ではなく、「会長の指名」と義務感を明確にした表現にすべきと考える。

5. 政策委員会の開催

政策委員会は、

(1) 第1回

平成28年1月18日（月） 弁理士会3階

(2) 第2回

平成28年3月17日（木） 弁理士会3階

(3) 第3回

平成28年8月24日（水） 弁理士会3階

にそれぞれ開催しました。

以 上

企 画 委 員 会

委員長 須 山 英 明

1. 委員会の構成

委員長 須 山 英 明 (弁ク)
副委員長 吉 田 倫太郎 (同友)
委員 小 國 泰 弘 (弁ク)
本 田 淳 (同友)
下 田 憲 雅 (弁ク)
川 崎 ひかり (同友)
担当副幹事長 梶 俊 和 (弁ク)

2. 職務権限

本会の運営の改善及び新規会員の増加対策等の調査、研究並びに機関紙の編集、発行に関する事項を行う。

3. 諮問事項

- (1) 旅行会、ゴルフ大会、その他会員相互の親睦を図るための行事の企画及びその実行
- (2) 他会派との積極的な交流を図るための行事の企画及びその実行
- (3) 機関誌の発行
- (4) 弁理士連合クラブの組織活性化のための方策の立案及びその実行
- (5) 弁理士連合クラブのホームページの維持及び管理
- (3) 平成28年度弁理士連合クラブ旅行会の実施
平成28年11月12日（土）～13日（日）にかけて嬉野温泉「和多屋別荘」において開催した。研修講師1名を含め59名もの先生方の参加を得て盛大に開催された。
- (4) 平成28年度弁理士連合クラブ旅行会ゴルフ大会
例年通り、旅行会の2日目に「武雄・嬉野カントリークラブ」において弁理士連合クラブ旅行会ゴルフ大会を開催。天候にも恵まれ、3組9名の参加を得た。
- (5) 平成28年度弁理士連合クラブ旅行会観光
昨年に引き続き、今年もゴルフ大会とは別に観光を手配した。29名の先生方が参加され、長崎港から軍艦島上陸クルージングを行った。海象にも恵まれ、無事上陸・観光することができた。
- (6) ホームページの維持、管理
今年度は、弁理士連合クラブのホームページに、選挙期間中限定の特設ページを開設した。
- (7) 機関紙の発行
平成29年2月中に発行予定。機関誌の発行はホームページを通じて行う予定。

4. 活動報告

- (1) 第1回企画委員会
日 時：平成28年6月8日
場 所：(業)サクラ国際特許事務所会議室
議 題：本年度計画と分担について
- (2) 第2回企画委員会
日 時：平成28年7月5日
場 所：(業)サクラ国際特許事務所会議室
議 題：旅行会の役割分担、機関紙及び連合クラブホームページの管理方針について

調 整 委 員 会

委員長 長 内 行 雄

1. 委員会の構成

委員長 長 内 行 雄（同友）
副委員長 山 川 茂 樹（弁ク）
委 員 小 川 眞 一（同友）
岸 本 達 人（弁ク）
吉 村 俊 一（同友幹事長）
瀧 澤 匡 則（弁ク幹事長）

2. 職務権限

単位クラブ間の問題を調整し解決を図ると共に弁理士連合クラブの在り方の検討を行う。

3. 諮問事項

弁理士会会長候補予定者を調整すること

4. 活動報告

上記諮問事項を受け次のように調整委員会を開催しました。

・日 時：平成28年2月24日

午後6時30分～7時30分

・場 所：弁理士会館地下1階A会議室

弁理士クラブから弁理士同友会に対して永井義久会員を弁理士会会長候補に推薦する予定である旨の申し出がありました。これを受けて、会長候補者の推薦に関して忌憚のない意見交換を行いました。この意見交換の中で、同友は同会員を推薦するか否かについて持ち帰って検討することを約束し、また、弁クが直近の弁ク総会で同会員を推薦決議することについて、同友は差し支えないことを確認しました。

役員協議委員会

委員長 山 川 茂 樹

1. 委員会の構成

委員長	山 川 茂 樹 (弁ク)
副委員長	井 澤 幹 (同友)
委員	安 彦 元 (同友)
	井 上 誠 一 (弁ク)
	永 岡 重 幸 (弁ク)
	奥 川 勝 利 (弁ク)
	下 田 憲 雅 (弁ク)
	岸 本 達 人 (弁ク)
	絹 谷 晴 久 (弁ク)
	高 下 雅 弘 (同友)
	山 下 幸 彦 (同友)
	山 本 晃 司 (弁ク)
	潮 太 郎 (弁ク)
	本 田 淳 (同友)
担当副幹事長	船 津 暢 宏 (弁ク)

2. 職務権限

日本弁理士会の役員選挙に関する事項を審議し、選挙活動の統括を行う。

3. 委嘱事項

4. 活動報告

- (1) 6月24日付けの日本弁理士会選挙管理委員会発行の「平成29年度役員定時選挙の実施要領」を入手し、平成27年度役員選挙の日程を確認した。
- (2) 8月22日 第1回委員会
- (3) 8月30日午後3時から日本弁理士会選挙管理委員会主催の選挙説明会に役員協議委員長が出席し、選挙管理委員会から説明を聞くとともに、ガイドラインその他の資料を入手した。また、選挙運動（特に、選挙運動にSNS等を使用すること）について電子メールで質問した。

- (4) 9月5日 第2回委員会
- (5) 9月12日 各会派毎に立候補届けを日本弁理士会に提出。選挙運動を開始。
- (6) 9月16日 副会長、監事、常議員の各選挙においては午後5時時点で立候補者数が選任数を越えなかったため、無投票で当選人が決定する一方、会長選挙においては選任数を越えたので、投票による選挙となる。
- (7) 9月14日～30日 票読み
弁理士連合クラブ推薦の候補者全員の当選が確定。
- (8) 10月20日 開票の結果、2657対3181（無効票3、白票64、投票率52.7%）で日本弁理士クラブと西日本弁理士クラブが推薦する候補者が当選し、連合クラブ推薦の候補者は当選を逃す。
- (9) 11月1日 第3回委員会
- (10) 11月22日午後6時半～8時半に銀座コートヤードマリオットホテルにて当選祝賀会を開催。

会長選挙において獲得した2657票は他会派の推薦が得られなかった中での数字であるが、当選を勝ち取ることができなかったことは残念である。敗因の一つとして、いわゆる無会派層に対する働きかけを行う上での体制作りの遅れが挙げられよう。選挙運動に協力して下さった方々にはこの場を借りて御礼申し上げる。

当選祝賀会には、日本弁理士クラブおよび西日本弁理士クラブよりご来賓をお招きして三派の関係修復のきっかけとした。なお、余興では昨年に引き続きサンバチームを招待し、祝賀会は大変盛況となった。

5. 弁理士連合クラブ推薦の当選者

副 会 長 梶 俊 和 (弁ク)

副 会 長 本 田 淳 (同友)

監 事 渡 邊 喜 平 (弁ク)

常 議 員 (関東選挙区)

古 谷 史 旺 (同友)

川久保 新 一 (弁ク)

関 昌 充 (同友)

遠 藤 朱 砂 (弁ク)

笹 野 拓 馬 (同友)

橘 祐 史 (弁ク)

研 修 委 員 会

委員長 山 田 武 史

1. 委員会の構成

委員長	山 田 武 史 (同友)
副委員長	飛 田 高 介 (弁ク)
委員	柿 本 邦 夫 (弁ク)
委員	横 田 香 澄 (同友)
担当副幹事長	梶 俊 和 (弁ク)

2. 職務権限

研修委員会は、弁理士制度、知的財産権制度、司法制度及び科学技術に関する研修を行い、会員の啓蒙を行う。

3. 諮問事項

- (1) 弁理士制度、知的財産権制度、司法制度及び科学技術に関する研修の開催（弁理士としてのスキルアップ用研修の開催）
- (2) その他、必要があれば、連合会員にとって有益な研修の開催

4. 活動報告

本年度は、佐賀県嬉野市の嬉野温泉で行われた平成28年度弁理士連合クラブ旅行会において、下記のとおり研修会を開催しました。

「九州での弁理士業の実情と遣り甲斐～産学官連携やベンチャー・中小企業支援等を通じて～」

日 時：平成28年11月12日（土）

15:00～16:30

講 師：羽立幸司先生

（知的財産総合事務所NEXPAT）

会 場：嬉野温泉 和多屋別荘「名月」

申込数：29名

内 容：

横田香澄先生の仲介により、弁理士連合クラブの旅行会時に羽立幸司先生（知的財産総合事務所NEXPAT）

を講師としてお招きし、九州での弁理士業の実情と遣り甲斐についてご講演頂きました。九州の地理的な位置付けに始まり、面積、人口、出願数、弁理士数といった統計情報、日本弁理士会九州支部の活動状況などについてご説明頂いた後、羽立先生個人の活動事例をご紹介頂き、最後に知財経営を含めた弁理士業の九州での遣り甲斐についてお話し頂きました。

講師の羽立先生は日本弁理士会九州支部の支部長・副支部長といった要職を歴任されており、九州における特許業界の実情に精通されていて、興味深いお話を多々うかがうことができました。また、現在福岡で開業されている一方、大阪・東京の特許事務所での勤務経験をお持ちの講師に対し、大阪・東



京における仕事との違い等、旅行会の研修とは思えないほどの活発な質疑応答もなされました。聴講者の方々にとって、満足度の高い研修であったものと推察致します。

また、研修会後の旅行会懇親会には、羽立先生にもご参加頂き、直接お話しをうかがえる機会をもつことができました。

5. おわりに

ご多忙にも拘わらず、連合旅行会における講演を快くお引き受け頂きました羽立幸司先生には、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

日本弁理士会及び各支部では継続研修が盛んに行われておりますが、弁理士連合クラブにおいては、継続研修とは違った視点の研修を今後とも行っていければ、と考えております。

第26回連合旅行会・ゴルフ大会

平成28年11月12日(土)～13日(日) 嬉野温泉 和多屋別荘 武雄・嬉野カントリークラブ

肥前国で交流を深める

企画委員長 須山 英明



11月12日(土)～13日(日)、嬉野温泉・和多屋別荘にて弁理士連合クラブ第26回旅行会が開催されました。嬉野温泉は、長崎県と接する佐賀県嬉野市にあり、非常に歴史の古い温泉地です。その泉質は、美肌に効果があるとの評判で、湯から上がると肌につるつる感があります。温泉街は落ち着いた佇まいで、とても風情があります。最寄りの長崎空港や佐賀空港から車で40分ほどの距離になりますが、湯につかってゆったりとできる温泉です。今回は九州での開催ということで、九州支部の先生を含め幅広く交流を深めることができました。

初日最初のイベントは研修会です。九州を中心的拠点として活躍されている羽立幸司先生をお迎えして「九州での弁理士業の実情と遣り甲斐～産学官連携やベンチャー・中小企業支援等を通じて～」とい



うテーマでご講演いただきました。コンサルタント業務などの遣り甲斐やご苦労をお話いただき、参加者一同とても興味深く拝聴しました。

研修会終了後は宴会まで自由時間です。先生方には美肌効果の温泉でゆったりとした時間を過ごせたのではないかと思います。嬉野はお茶の産地としても有名で、和多屋別荘の館内も土産物屋さんを中心に緑茶の香りがあふれていて、癒しの空間を醸しておりました。

写真撮影が終わると宴会のスタートです。弁理士連合クラブ幹事長の石川憲先生によるご挨拶に始まり、日本弁理士会会長伊丹勝先生、日本弁理士クラ

ブ幹事長杉村純子先生、西日本弁理士クラブ幹事長松村直都先生、研修会講師羽立幸司先生の各先生方からご挨拶を頂戴しました。乾杯は弁理士連合クラブ相談役木下實三先生にご発声いただきました。

乾杯で喉を潤すと、皆さん盛り沢山の料理に舌鼓を打ち、お酒がすすむにつれてあちこちに輪ができ、賑やかな宴となりました。あまりの盛り上がりの中締め切りの切り出しに躊躇したくらいです。中締めは弁理士連合クラブ相談役中島淳先生にお言葉をいただきました。

二次会は館内のカラオケ付ナイトラウンジです。和多屋別荘には嬉野川を挟んで兩岸に建物が広がっ



ていて、宴会会場から二次会会場まで川にかかった渡り廊下を移動します。先生方には会場間の移動をお願いすることになりましたが、ラウンジが満杯になるほどたくさんの先生方にご参加いただきました。二次会の盛り上がりも大変なもので、多くの先生方が自慢の喉を披露されました。あまりの盛り上がりには二次会終了時間後もそのまま残って延長戦に突入した先生方もちらほら。和多屋別荘の周辺には締めラーメンを楽しめる場所がありましたので、三次会として外に繰り出した先生方もおられたようです。

二日目は、観光組、ゴルフ組、自由行動組がそれぞれ肥前国を楽しみました。観光組は、長崎港からの軍艦島上陸クルージングです。

「軍艦島」は、長崎県長崎市の「端島」の通称です。軍艦島は、2015年に「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界遺産に登録されました。この島には明治から昭和にかけて海底炭鉱によって栄えた歴史があり、1974年の閉山に伴って現在は無人島になっています。島の上は集合住宅などの遺構が連なっていて、近年ブームになりました。



軍艦島は対岸の長崎半島から4.5 km程しか離れていませんが、外洋に面しているとのことで、上陸の成否は天候よりも海象が決め手になります。波が荒いと接岸することができません。船を見て「意外と小さいな」という印象を受けるかもしれませんが、大きな船は接岸が困難なのです。上陸に際しては、（つかまるために）両手を空ける、靴は滑らないものを履く、雨が降っても傘は不可、などなど、様々な注意事項があり、思いの外緊張するツアーです。

当日は、天気は快晴、海はべた凧、あっさりと上陸に成功しました。これには参加した先生方も大喜び。下見のとき波が大荒れだった私は若干複雑でしたが、先生方の普段の行いが好天を呼び寄せたのでしょう。本当にベストコンディションでした。



軍艦島に残る構造物は圧巻です。その大きさ、風雨と波に晒されつつも生活感を残す建物、どれも印象に残るものばかりでした。ガイドさんに同行していただき、簡単な歴史や建物について教えてもらいます。そこが一時期日本のエネルギーを担った現場であり、かつ生活の場であったことがよくわかりました。なにより、その迫力に圧倒されます。



見学を終えて乗船し島を離れて振り返ると、そこにはまさに軍艦が浮かんでいました。全盛期に灯りがともっているところを見たら、もっと軍艦そのものに見えたことでしょう。ガイドさんのある言葉が耳に残りました。「この島は日々変わっています。目に焼き付けておいてください。一年後には同じ形ではないかもしれません。」機会があれば、ぜひ再び訪れてみたいところです。

長崎港に戻ると長崎新地中華街にて昼食です。長崎と言えば、長崎ちゃんぽんに皿うどん。ご当地のおいしい料理でおなか一杯になりました。観光組ツアーはここで解散です。長崎の中心部での解散ということで、そのまま長崎市内観光を楽しまれた先生も多かったものと思います。



最後に、旅行会にご参加いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。今回は首都圏から遠かったですが、天候にも恵まれ、先生方のよき交流の機会となっていれば幸いです。また、私の不手際により旅行会準備と進行に至らない点多々ございました。この場を借りてお詫び申し上げますとともに、準備に尽力していただいた吉田倫太郎企画副委員長をはじめとする企画委員の先生方に深く感謝いたします。

今回の旅行会に懲りることなく、また次回の旅行会にも御参加いただくことを願っております。

11月13日<ゴルフ大会の部>

ゴルフ大会幹事 井澤 幹

弁理士連合クラブ旅行会ゴルフ大会は、例年どおり、旅行会2日目の11月13日（日）に「武雄・嬉野カントリークラブ」で開催されました。

同クラブは、武雄・嬉野の両温泉場に近く、杉原輝雄プロのチャリティーゴルフ大会等が開催されるなど、西九州地区有数のゴルフコースとして知られております。

ところが、今回のゴルフ大会は、珍しく3名3組計9名の小規模の大会となりました。

原因は、私ゴルフ幹事の至らなさか、「軍艦島」観光のせいか、いろいろ悩みました。

そしてわかりました。どっちもだ。

さて、スタートは7時30分、プレースタイルはスルーと、コンペらしからぬ本場を髣髴とさせるプ

レースタイル。12時過ぎにはプレーを終了したお陰もあって、非常に綺麗な温泉にゆっくりと浸かる事ができ、そして入浴後は焼酎を飲みながら、カキフライの大きさを言い争える程ゆっくりと食事ができました。クラブハウスのテレビで松山英樹の三井住友VISA太平洋マスターズの活躍も見れ、本当にゆっくりと過ごす事ができたので、前日の深酒とゴルフの疲れを癒すことができました。

成績はみなさんいまいちの様でしたが、天気にも恵まれ、帰りは送迎バスで空港まで楽チンでしたので、言いたい文句もどこかへ消え、笑顔で長崎（佐賀）を後にしました。

ハーフにカステラ配っておいてよかった～♪

第26回連合旅行会・ゴルフ大会成績

平成28年11月13日 於：武雄・嬉野カントリークラブ

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	井澤 幹	44	52	96	22.8	73.2
準優勝	木下 實三	48	45	93	18.0	75.0
3位	鈴木 一 晃	47	47	94	16.8	77.2
4位	石川 憲	56	56	112	32.4	79.6
5位	渡邊 一 平	54	51	105	25.2	79.8
6位	松尾 憲一郎	58	56	114	33.6	80.4
7位	徳増 あゆみ	65	60	125	44.4	80.6
8位	高下 雅 弘	64	63	127	45.6	81.4
9位	永井 義 久	52	44	96	13.2	82.8

平成28年度弁理士連合クラブ

役員・委員長・副委員長・委員

幹事長 石川 憲（同友）

副幹事長 船津 暢宏（弁ク）（役員協議、調整）
梶 俊和（弁ク）（政策、企画、研修）
笹野 拓馬（同友）（総務、30周年準備）

幹事（同友）小林 保 長内 行雄 小川 眞一 山田 武史 本田 淳 徳増 あゆみ
（弁ク）永井 義久 中川 裕幸 山本 晃司 岸本 達人 須山 英明
瀧澤 匡則

監事 中村 盛夫（同友） 真田 修治（弁ク）

相談役（同友）原田 信市 佐々木 功 磯野 道造 菊池 新一 小池 晃
田辺 敏郎 古谷 史旺 小林 正治 吉田 芳春 小川 眞一
丸山 英一
（弁ク）古谷 馨 山川 政樹 絹谷 信雄 伊藤 進 須山 佐一 中島 淳
木下 實三 永井 義久 川久保 新一 渡邊 一平 山川 茂樹
山本 晃司

委員会

総務委員会

委員長 中川 裕幸（弁ク）
副委員長 笹川 拓（同友）
委員（同友）松本 直子
（弁ク）佐々木 まどか 高橋 堅

政策委員会

委員長 小林 保（同友）
副委員長 小田原 敬一（弁ク）
委員（同友）古谷 史旺 関 昌充 井澤 幹 田辺 恵 高下 雅弘
（弁ク）伊藤 進 山本 晃司 岡田 希子 永岡 重幸 小國 泰弘
今堀 克彦 須山 英明 奥川 勝利 岩田 耕一 富澤 正

企画委員会

委員長 須山 英明（弁ク）
副委員長 吉田 倫太郎（同友）
委員（同友）本田 淳 川崎 ひかり
（弁ク）小國 泰弘 下田 憲雅

役員協議委員会

委員長 山川 茂樹 (弁ク)
副委員長 井澤 幹 (同友)
委員 (同友) 安彦 元 山下 幸彦
(弁ク) 小國 泰弘 絹谷 晴久

調整委員会

委員長 長内 行雄 (同友)
副委員長 山川 茂樹 (弁ク)
委員 (同友) 小川 眞一 吉村 俊一
(弁ク) 岸本 達人 瀧澤 匡則

研修委員会

委員長 山田 武史 (同友)
副委員長 飛田 高介 (弁ク)
委員 (同友) 横田 香澄
(弁ク) 柿本 邦夫

30周年記念事業準備委員会

委員長 粕川 敏夫 (同友)
副委員長 永井 義久 (弁ク)
委員 (同友) 古谷 史旺
(弁ク) 永岡 重幸

弁理士連合クラブ歴代役員

【昭和62年度】

幹事長 山川政樹
副幹事長 佐々木功 志賀正武 下田容一郎
幹事 天野 泉 伊藤 進 岡田英彦
菊池新一 絹谷信雄 佐藤孝雄
土橋 皓 中畑 孝 中山 清
原田信市 古谷 馨 米屋武志
監事 佐々木秋市 丹波宏之
顧問 当分の間置かない

【昭和63年度】

幹事長 山川政樹
副幹事長 佐々木功 志賀正武 下田容一郎
幹事 天野 泉 伊藤 進 岡田英彦
菊池新一 絹谷信雄 佐藤孝雄
土橋 皓 中畑 孝 中山 清
原田信市 古谷 馨 米屋武志
監事 佐々木秋市 丹波宏之
顧問 当分の間置かない
総務委員会
委員長 山元俊仁
政策委員会
委員長 磯野道造
副委員長 小田治親
委員 黒川弘朗 竹内 裕 秋山 修
守谷一雄 須山佐一 木下實三
三澤正義 羽村行弘
企画委員会
委員長 紺野正幸
副委員長 森 哲也
委員 大貫和保 黒田博道 田辺敏郎
辻 実 中山伸治 松田雅章
村田幹雄 渡邊喜平

選挙対策委員会

委員長 佐々木功

【平成元年度】

幹事長 古谷 馨
副幹事長 佐々木功 佐藤孝雄 原田信市
幹事 磯野道造 菊池新一 絹谷信雄
志賀正武 下田容一郎 武田賢市
土橋 皓 中山 清 丹波宏之
古谷史旺 山川政樹 米屋武志
監事 安達房次郎 須田孝一郎

総務委員会

委員長 須山佐一
副委員長 吉田精孝
委員 大原拓也 恩田浩宣 大貫和保
小倉正明 高橋康夫 田辺敏郎
仁平 孝 渡邊喜平

政策委員会

委員長 原田信市
副委員長 守谷一雄
委員 天野 泉 黒田博道 紺野正幸
竹内 裕 竹山宏明 戸村 隆
松田雅章 真田修治

企画委員会

委員長 唐木浄治
副委員長 木村高久
委員 山崎輝緒 齋藤美晴 佐藤幸男
渡部敏彦 古谷史旺 大津洋夫
小林正治 今野耕哉

選挙対策委員会

委員長 丹羽宏之

【平成 2 年度】

幹事長 佐々木功
副幹事長 菊池新一 佐藤孝雄 下田容一郎
天野 泉 小池 晃 絹谷信雄
木下實三 紺野正幸 志賀正武
土橋 皓 中畑 孝 中山 清
原田信市 山川政樹 米屋武志
監事 秋本正實 武田賢市

総務委員会

委員長 小林正治
副委員長 山崎輝緒
委員 加藤和詳 五十嵐和壽 木村高久
竹山宏明 齋藤美晴 本田 崇
仁平 孝 羽村行弘

政策委員会

委員長 下田容一郎
副委員長 坂口信昭
委員 秋元芳雄 飯田昭夫 積田輝正
中島 淳 原田信市 三澤正義
守谷一雄 山元俊仁

企画委員会

委員長 吉田精孝
副委員長 渡部敏彦
委員 唐木浄治 黒田博道 桑原 稔
永井義久 仁科勝史 松田雅章
本宮照久 渡邊一平

選挙対策委員会

委員長 絹谷信雄

【平成 3 年度】

幹事長 菊池新一
副幹事長 米屋武志 下田容一郎 佐藤孝雄
幹事 天野 泉 磯野道造 絹谷信雄
志賀正武 武田賢市 土橋 皓
中島 淳 中山 清 原田信市
古谷史旺 山川政樹 山元俊仁
監事 小田治親 佐々木功

総務委員会

委員長 吉田精孝
副委員長 木村高久

委員 井上誠一 桑原 稔 坂本光雄
富田和子 羽村行弘 森正 澄
八鍬 昇 渡部敏彦

政策委員会

委員長 中島 淳
副委員長 坂口信昭
委員 五十嵐和壽 伊藤 進 大賀眞司
黒田博道 今野耕哉 竹内 裕
三澤正義 紺野正幸

企画委員会

委員長 黒川弘朗
副委員長 齋藤美晴
委員 秋山 修 北村 仁 小林正治
竹山宏明 鳥羽 修 山口邦夫
吉田芳春 渡邊一平

選挙対策委員会

委員長 佐藤孝雄
副委員長 天野 泉
委員 大塚明博 木下實三 下田容一郎
須山佐一 永井義久 中澤健二
中畑 孝 中山伸治

【平成 4 年度】

幹事長 原田信市
副幹事長 志賀正武 絹谷信雄 中島 淳
幹事 伊藤 進 菊池新一 木下實三
佐藤孝雄 下田容一郎 須山佐一
田辺敏郎 戸村 隆 古谷史旺
山崎輝緒 山本彰司 米屋武志
監事 磯野道造 紺野正幸

総務委員会(担当 中島)

委員長 黒川弘朗
副委員長 永井義久
委員 大島陽一 小川利春 高橋康夫
平山一幸 小倉正明 坂本光雄
竹山宏明 山本義明

政策委員会(担当 志賀)

委員長 佐藤孝雄
副委員長 戸村 隆
委員 内田和男 紺野正幸 齋藤美晴
守谷一雄 天野 泉 今野耕哉

坂口信昭 本田 崇

企画委員会(担当 絹谷)

委員長 吉田芳春

副委員長 関口俊三

委員 川久保新一 富田和子 牧野剛博
村上光司 井澤 洵 鈴木次郎
西浦嗣晴 米山淑幸

選挙対策委員会(担当 原田)

委員長 中島 淳

副委員長 竹内 裕

委員 仁平 孝 松山圭佑 山田明信
渡邊喜平 大塚明博 田辺敏郎
古谷史旺 米屋武志

【平成 5 年度】

幹事長 絹谷信雄

副幹事長 磯野道造 武田賢市 中島 淳

幹事 (桜門) 井澤 洵 田辺敏郎
森哲也 大橋 弘
山本彰司 小池 晃
(弁ク) 伊藤 進 木下實三
木村高久 佐藤孝雄
仁平 孝 山崎輝緒

監事 吉田精孝 中山 清

総務委員会(担当 磯野道造)

委員長 仁平 孝

副委員長 今野耕哉

委員 (桜門) 羽村行弘 大塚明博
土川 晃 坂本光雄
(弁ク) 川久保新一 富田和子
油井 透 村上光司

政策委員会(担当 中島 淳)

委員長 天野 泉

副委員長 渡邊喜平

委員 (桜門) 中山伸治 坂口信昭
黒川弘朗 川村恭子
(弁ク) 黒田博道 笹井浩毅
遠山 勉 西森浩司

企画委員会(担当 武田賢市)

委員長 木村高久

副委員長 秋山 修

委員 (桜門) 長内行雄 飯田昭夫
仁科勝史 吉田芳春
(弁ク) 佐藤孝雄 布施行夫
真田修治 石橋佳之夫

選挙対策委員会(担当 絹谷信雄)

委員長 唐木浄治

副委員長 守谷一雄

委員 (桜門) 恩田博宣 本田 崇
古谷史旺 森哲也
(弁ク) 三澤正義 内田和男
山田明信 石川泰男

【平成 6 年度】

幹事長 米屋武志

副幹事長 天野 泉 守谷一雄 木下實三

幹事 (弁ク) 木村高久 伊藤 進
須山佐一 中島 淳
三澤正義 永井義久
(同友) 森 哲也 大橋 弘
黒川弘朗 小池 晃
吉田精孝 小林正治

監事 (弁ク) 小田治親
(同友) 山本彰司

総務委員会(担当 守谷一雄)

委員長 田中雅雄(同友)

副委員長 黒田博道(弁ク)

委員 (弁ク) 原田 寛 北村 仁
渡邊一平 井上 一
(同友) 今野耕哉 小倉正明
本田 崇 竹山宏明

政策委員会(担当 天野 泉)

委員長 木下實三(弁ク)

副委員長 古谷史旺(同友)

委員 (弁ク) 佐藤孝雄 紺野正幸
真田修治 齋藤美晴
(同友) 天野 泉 坂口信昭
大塚明博 吉田芳春

企画委員会(担当 木下實三)

委員長 秋山 修(同友)

副委員長 永井義久(弁ク)

委員 (弁ク) 渡部敏彦 川久保新一
布施行夫 関口宗昭

(同友) 米山叔幸 旦 武尚
羽村行弘 桑原 稔

選挙対策委員会(担当 天野 泉)

委 員 長 三澤正義(弁ク)
副委員長 中澤健二(同友)
委 員 (弁ク) 村田幹夫 牛木 護
石川泰男 半田昌男
(同友) 積田輝正 中山伸治
本宮照久 飯田昭夫

連絡協議特別委員会(担当 米屋武志)

委 員 長 仁平 孝(弁ク)
副委員長 井澤 洵(同友)
委 員 (弁ク) 中島 淳 黒田博道
(同友) 菊池新一 吉田精孝

【平成 7 年度】

幹 事 長 佐藤孝雄(弁ク)
副幹事長 小池 晃(同友)
古谷史旺(同友)
伊藤 進(弁ク)
幹 事 (同友) 井澤 洵 田中雅雄
田辺敏郎 中山伸治
羽村行弘 吉田精孝
(弁ク) 須山佐一 中島 淳
永井義久 仁平 孝
三澤正義 守谷一雄
監 事 (同友) 積田輝正
(弁ク) 土橋 皓

総務委員会(担当 小池 晃)

委 員 長 石川泰男(弁ク)
副委員長 小林 保(同友)
委 員 (同友) 伊賀誠司 長内行雄
花村 太 山本義明
(弁ク) 井上誠一 黒田 壽
塩田辰也 西森浩司

政策委員会(担当 古谷史旺)

委 員 長 小倉正明(同友)
副委員長 齋藤美晴(弁ク)
委 員 (同友) 田村榮一 仁科勝史
本田 崇 森 哲也
(弁ク) 川久保新一 中川裕幸
服部雅紀 松田雅章

企画委員会(担当 伊藤 進)

委 員 長 井上 一(弁ク)
副委員長 磯野道造(同友)
委 員 (同友) 大貫和保 桑原 稔
中村盛夫 米山淑幸
(弁ク) 関口宗昭 佐藤年哉
保立浩一 山口邦夫

選挙対策委員会(担当 佐藤孝雄)

委 員 長 中澤健二(同友)
副委員長 守谷一雄(弁ク)
委 員 (同友) 秋山 修 天野 泉
大塚明博 山田智重
(弁ク) 遠山 勉 木下實三
渡邊一平 渡邊喜平

【平成 8 年度】

幹 事 長 小池 晃(同友)
副幹事長 須山佐一(弁ク) (政策・弁ク担当)
三澤正義(弁ク) (総務・人事担当)
大橋 弘(同友) (企画・同友担当)
幹 事 (弁ク) 下田容一郎 木村高久
伊藤 進 紺野正幸
木下實三 黒田博道
(同友) 恩田博宣 古谷史旺
坂口信昭 本田 崇
小林正治 田中雅雄
監 事 山元俊仁(弁ク) 吉田精孝(同友)
相 談 役 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
絹谷信雄 佐藤孝雄
(同友) 田中武文 原田信市
佐々木功 菊池新一
米屋武志

総務委員会(担当 三澤正義)

委 員 長 秋山 修(同友)
副委員長 真田修治(弁ク)
委 員 (弁ク) 西森浩司 川久保新一
井上 一 保立浩一
(同友) 中里浩一 桑原 稔
神崎正浩 米山叔幸

政策委員会(担当 須山佐一)

委 員 長 伊藤 進(弁ク)

副委員長 仁科勝史(同友)
 委 員 (弁ク) 仁平 孝 北村 仁
 青木輝男 遠山 勉
 (同友) 森哲 也 小林 保
 五十嵐和壽 羽村行弘

企画委員会(担当 大橋 弘)
 委 員 長 坂本光雄(同友)
 副委員長 井上誠一(弁ク)
 委 員 (弁ク) 紺野正幸 岡本啓三
 開口宗昭 黒田 壽
 (同友) 大貫和保 中村盛夫
 中村和年 旦 武尚

研修委員会(担当 大橋 弘)
 委 員 長 高月 猛(同友)
 副委員長 井上 一(弁ク)
 委 員 (弁ク) 中川裕幸 伊藤嘉昭
 (同友) 本田 崇 山田智重

選挙対策委員会(担当 小池 晃)
 委 員 長 木下實三(弁ク)
 副委員長 中山伸治(同友)
 委 員 (弁ク) 土橋 皓 渡邊一平
 黒田博道 山口邦夫
 (同友) 黒川弘朗 八鍬 昇
 小倉正明 伊賀誠司

【平成9年度】

幹 事 長 木下實三(弁ク)
 副幹事長 竹内 裕(同友)
 (総務・10周年(主)担当)
 田辺敏郎(同友)

(企画・研修・10周年担当)
 永井義久(弁ク)
 (政策・選対・10周年担当)

幹 事 (弁ク) 石川泰男 黒田博道
 紺野正幸 須山佐一
 中島 淳 三澤正義
 (同友) 秋山 修 大塚明博
 大貫和保 小倉正明
 坂本光雄 中澤健二

監 事 丹羽宏之(弁ク) 羽村行弘(同友)
 相 談 役 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
 絹谷信雄 佐藤孝雄
 (同友) 田中武文 原田信市

佐々木功 菊池新一
 米屋武志 小池 晃

総務委員会(担当 竹内 裕)
 委 員 長 川久保新一(弁ク)
 副委員長 米山淑幸(同友)
 委 員 (弁ク) 井上誠一 加藤和詳
 黒田 壽 笹井浩毅
 (同友) 秋山 修 桑原 稔
 菊池 徹 中村信彦

政策委員会(担当 永井義久)
 委 員 長 吉田精孝(同友)
 副委員長 内田和男(弁ク)
 委 員 (弁ク) 紺野正幸 布施行夫
 保立浩一 三品岩男
 (同友) 大塚明博 仁科勝史
 小倉正明 飯田昭夫

企画委員会(担当 田辺敏郎)
 委 員 長 西森浩司(弁ク)
 副委員長 長内行雄(同友)
 委 員 (弁ク) 青木輝男 石橋佳之夫
 世良和信 山口邦夫
 (同友) 坂本光雄 旦 武尚
 小川眞一 松下 満

選挙対策委員会(担当 永井義久)
 委 員 長 中山伸治(同友)
 副委員長 伊藤 進(弁ク)
 委 員 (弁ク) 黒田博道 齋藤美晴
 須山佐一 渡邊喜平
 (同友) 吉田芳春 黒川弘朗
 神崎正浩 藤井稔也

研修委員会(担当 田辺敏郎)
 委 員 長 石川泰男(弁ク)
 副委員長 中里浩一(同友)
 委 員 (弁ク) 井上 一 木村高明
 塩田辰也 遠山 勉
 (同友) 大塚明博 小林 保
 西野茂美 大賀眞司

10周年記念事業実行委員会
 (担当 竹内裕(主)、田辺敏郎、永井義久)
 委 員 長 天野 泉(同友)
 副委員長 (弁ク) 井上誠一 内田和男

		須山佐一	遠山 勉
		油井 透	
	(同友)	唐木浄治	積田輝正
		羽村行弘	吉田芳春
委 員	(弁ク)	青木輝男	伊藤 進
		大島陽一	木村高久
		黒田博道	黒田 壽
		齋藤美晴	笹井浩毅
		下田容一郎	中島 淳
		中山 清	服部雅紀
		布施行夫	三澤正義
		山口邦夫	
	(同友)	井澤 洵	大橋 弘
		大塚明博	菊池 徹
		坂本光雄	坂口信昭
		丸山英一	田中雅雄
		旦武 尚	中澤健二
		古谷史旺	山本彰司
		山田智重	吉田精孝
		米山淑幸	

【平成10年度】

幹 事 長	田辺敏郎(同友)
副幹事長	吉田精孝(同友)
	(政策、役員協議担当)
	木村高久(弁ク)
	(企画、研修担当)
	須山佐一(弁ク)
	(総務、渉外関係担当)

幹 事	(同友)	小林正治	井澤 洵
		中澤健二	本田 崇
		小川眞一	五十嵐和壽
	(弁ク)	小田治親	伊藤 進
		仁平 孝	真田修治
		渡邊喜平	井上 一

監 事	土橋 皓(弁ク)	大橋 弘(同友)
-----	----------	----------

相 談 役	(弁ク)	古谷 馨	山川政樹
		絹谷信雄	佐藤孝雄
		木下實三	
	(同友)	田中武文	原田信市
		佐々木功	菊池新一
		米屋武志	小池 晃

総務委員会(担当：須山佐一)

委 員 長	小倉正明(同友)
副委員長	渡邊一平(弁ク)
委 員	(同友) 清水敬一 中村盛夫
	旦 武尚 伊賀誠司
	(弁ク) 山口邦夫 井上誠一
	下田 茂 内田和男

政策委員会(担当：吉田精孝)

委 員 長	中島 淳(弁ク)
副委員長	小林正治(同友) 笹井浩毅(弁ク)
委 員	(弁ク) 青木輝夫 山口邦夫
	黒田 壽 大橋邦彦
	布施行夫 保立浩一
	半田昌男 阪本清孝
	藤野清規 原田 寛
	(同友) 伊賀誠司 小倉正明
	恩田博宣 唐木浄治
	小池 晃 清水敬一
	旦 武尚 原田信市
	古谷史旺 米山淑幸

(監事兼任)	(同友)	井澤 洵 中澤健二
		本田 崇 小川眞一
		五十嵐和壽
	(弁ク)	小田治親 伊藤 進
		仁平 孝 真田修治
		渡邊喜平 井上 一

企画委員会(担当：木村高久)

委 員 長	大塚明博(同友)
副委員長	小川利春(弁ク)
委 員	(同友) 長内行雄 小林 保
	坂本光雄 羽村行弘
	(弁ク) 石橋佳之夫 牧 哲郎
	渡部敏彦 西森浩司

役員協議委員会(担当：吉田精孝)

委 員 長	守谷一雄(弁ク)
副委員長	羽村行弘(同友)
委 員	(弁ク) 三澤正義 小田治親
	岡本啓三 高橋康夫
	木下實三 真田修治
	(同友) 古谷史旺 唐木浄治
	大貫和保 仁科勝史
	中山伸治

研修委員会(担当：木村高久)

委 員 長	大貫和保(同友)
-------	----------

副委員長 柿本恭成(弁ク)
委 員 (同友) 小川眞一 鈴木利明
丸山英一 中村信彦
(弁ク) 石川泰男 島田康男
古谷 聡 堤 卓

再選挙に関する特別委員会

委 員 長 木下實三(弁ク)
副委員長 守谷一雄(弁ク) 羽村行弘(同友)
委 員 (弁ク) 三澤正義 小田治親
岡本啓三 高橋康夫
真田修治
(同友) 古谷史旺 唐木浄治
大貫和保 仁科勝史
中山伸治

【平成11年度】

[幹事会]

幹 事 長 須山佐一(弁ク)
副幹事長 井澤 洵(同友)
(企画、研修担当)
小林正治(同友)
(政策、役員協議担当)
永井義久(弁ク)
(総務、渉外関係担当)

幹 事(政策委員兼任)
(同友) 大橋 弘 黒川弘朗
坂口信昭 森 哲也
羽村行弘 吉田芳春
(弁ク) 伊藤 進 小田治親
仁平 孝 渡邊喜平
川久保新一 内田和男

監 事 田中武文(同友) 土橋 皓(弁ク)

[相談役会]

相談役
(幹事長経験者)

山川政樹(弁ク) 古谷 馨(弁ク)
佐々木功(同友) 菊池新一(同友)
原田信市(同友) 絹谷信雄(弁ク)
米屋武志(同友) 佐藤孝雄(弁ク)
小池 晃(同友) 木下實三(弁ク)
田辺敏郎(同友)

(弁理士会会長経験者)

田中武文(同友) 山川政樹(弁ク)
(弁理士会常議員会議長経験者)
山元俊仁(弁ク) 天野 泉(同友)

総務委員会(担当 永井義久)

委 員 長 井上 一(弁ク)
副委員長 菊池 徹(同友)
委 員 (弁ク) 青木輝男 井上誠一
尾関伸介 笹井浩毅
(同友) 羽切正治 中村信彦
山木義明 崔 秀喆

政策委員会(担当 小林正治)

委 員 長 小池 晃(同友)
{9月以降：古谷 史旺(同友)}
副委員長 大橋邦彦(弁ク)
中澤健二(同友)

委員(幹事兼任)

(同友) 新井 全 飯田昭夫
伊賀誠司 竹内 裕
松下 満 吉田精孝
(弁ク) 井上誠一 北村 仁
黒田 壽 三澤正義
山名正彦

企画委員会(担当 井澤 洵)

委 員 長 山口邦夫(弁ク)
副委員長 杉本良夫(同友)
委 員 (弁ク) 岡本啓三 亀谷美明
布施行夫 渡部敏彦
(同友) 本宮照久 神崎正浩
高尾裕之 青山 仁

役員協議委員会(担当 小林正治)

委 員 長 原田信市(同友)
副委員長 内田和男(弁ク)
天野 泉(同友)
委 員 (同友) 五十嵐和壽 小川眞一
竹内 裕 中山伸治
(弁ク) 川久保新一 木村高久
紺野正幸 仁平 孝
原田 寛 守谷一雄
山川政樹

調整委員会(担当 永井義久)

委 員 長 古谷史旺(同友)
副委員長 三澤正義(弁ク)

委員 (同友) 菊池新一 原田信市
森 哲也 山本彰司
(弁ク) 絹谷信雄 下田容一郎
中山 清 守谷一雄

研修委員会(担当 井澤 洵)

委員長 保立浩一(弁ク)
副委員長 五十嵐和壽(同友)
委員 (弁ク) 堤 卓 長岡 重幸
廣田浩一 油井 透
(同友) 山田智重 中里浩一
米山叔幸 藤井稔也

【平成12年度】

[幹事会]

幹事長 古谷史旺(同友)
副幹事長 仁平 孝(弁ク)
(政策、役員協議担当)
真田修治(弁ク)
(企画、研修担当)
坂口信昭(同友)
(総務、調整、渉外関係担当)

幹事 (弁ク) 内田和男 井上 一
中島 淳 渡邊一平
土橋 皓 永井義久
(同友) 大貫和保 大塚明博
本田 崇 小倉正明
羽村行弘 田中雅雄

監事 積田輝正(同友) 原田 寛(弁ク)

相談役 田中武文(同友) 山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク) 佐々木功(同友)
菊池新一(同友) 原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク) 佐藤孝雄(弁ク)
小池 晃(同友) 木下實三(弁ク)
田辺敏郎(同友) 須山佐一(弁ク)

総務委員会

委員長 坂本光雄(同友)
副委員長 黒田 壽(弁ク)
委員 (弁ク) 山本晃司 伊藤嘉昭
尾川秀昭 石崎 剛
(同友) 大塚明博 山本義明
菊池 徹 崔 秀喆

政策委員会

委員長 木下實三(弁ク)
副委員長 本田 崇(同友)
世良和信(弁ク)
委員 (同友) 竹内 裕 中澤健二
秋山 修 小林正治
吉田芳春 小倉正明
松下 満 崔 秀喆
(弁ク) 伊藤 進 齋藤美晴
亀谷美明 川久保新一
保立浩一 布施行夫

役員協議委員会

委員長 下田容一郎(弁ク)
副委員長 小林正治(同友)
井上 一(弁ク)
委員 (同友) 原田信市 黒川弘朗
高野昌俊 西野茂美
本宮照久
(弁ク) 永井義久 紺野正幸
小田治親 青木輝夫
北村 仁

調整委員会

委員長 三澤正義(弁ク)
副委員長 山本彰司(同友)
委員 (弁ク) 絹谷信雄 木村高久
守谷一雄 須山佐一
(同友) 中山伸治 菊池新一
森 哲也 天野 泉

研修委員会

委員長 山田智重(同友)
副委員長 木村高久(弁ク)
委員 (弁ク) 堤 卓 高島敏郎
友野英三 坂本清孝
(同友) 中村信彦 青山 仁
高田大輔 高尾裕之

企画委員会

委員長 長内行雄(同友)
副委員長 柿本恭成(弁ク)
委員 (同友) 杉本良夫 伊賀誠司
丸山英一 山崎高明
(弁ク) 廣田浩一 佐藤年哉
富澤 孝 金坂憲幸

【平成13年度】

幹事長 中島 淳(弁ク)
副幹事長 本田 崇(同友)
(政策、研修担当)
山本彰司(同友)
(企画、役員協議担当)
伊藤 進(弁ク)
(総務、調整、渉外関係担当)

幹事 (弁ク) 中山 清 仁平 孝
笹井浩毅 内田和男
大橋邦彦 布施行夫
(同友) 唐木浄治 丸山英一
山崎高明 五十嵐和壽
森 哲也 中山伸治

監事 黒川弘朗(同友) 富田和子(弁ク)

相談役 田中武文(同友) 山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク) 佐々木功(同友)
菊池新一(同友) 原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク) 米屋武志(同友)
佐藤孝雄(弁ク) 小池 晃(同友)
木下實三(弁ク) 田辺敏郎(同友)
須山佐一(弁ク) 古谷史旺(同友)

総務委員会
委員長 保立浩一(弁ク)
副委員長 中村盛夫(同友)
委員 (弁ク) 尾川秀昭 阪本清孝
廣田浩一 山本晃司
(同友) 中里浩一 松下 満
藤井稔也 山木義明

政策委員会
委員長 磯野道造(同友)
副委員長 齋藤美晴(弁ク) 羽村行弘(同友)
委員 (弁ク) 柿本邦夫 黒田勇治
仁平 孝 平山一幸
三谷 恵 三澤正義
山川茂樹
(同友) 五十嵐和壽 坂口信昭
竹内 裕 田辺敏郎
中澤健二 森 哲也

役員協議委員会

委員長 吉田精孝(同友)
副委員長 守谷一雄(弁ク) 吉田芳春(同友)
委員 (弁ク) 小田治親 柿本恭成
北村 仁 木下實三
紺野正幸
(同友) 内藤嘉昭 佐々木功
古谷史旺 仁科勝史
長内行雄

調整委員会
委員長 中澤健二(同友)
副委員長 木村高久(弁ク)
委員 (弁ク) 須山佐一 真田修治
永井義久 渡邊一平
(同友) 天野 泉 小林正治
中畑 孝 志賀正武

研修委員会
委員長 山川茂樹(弁ク)
副委員長 菊池 徹(同友)
委員 (弁ク) 石川泰男 堀 城之
富澤 孝 木村高明
(同友) 山田智重 杉本良夫
旦 武尚 青山 仁

企画委員会
委員長 黒田 壽(弁ク)
副委員長 川俣静子(同友)
委員 (弁ク) 金坂憲幸 佐藤年哉
友野英三 岡本啓三
(同友) 高野昌俊 竹山宏明
崔 秀喆 谷口 登

【平成14年度】

幹事長 小林正治(同友)
副幹事長 森 哲也(同友)
(総務、調整、渉外関係担当)
内田和男(弁ク)
(企画、研修担当)
川久保新一(弁ク)
(政策、役員協議担当)

幹事 (弁ク) 山川政樹 牧 哲郎
青木輝夫 布施行夫

亀谷美明 保立浩一
(同友) 中山伸治 唐木浄治
清水敬一 山本義明
白崎真二 宮坂 徹

仁平 孝 柿本恭成
黒田 壽
(同友) 原田信市 黒川弘朗
山本彰司 古谷史旺
内藤嘉昭

監 事 中山 清(弁ク)仁科勝史(同友)

相 談 役 田中武文(同友)山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク)佐々木功(同友)
菊池新一(同友)原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク)米屋武志(同友)
佐藤孝雄(弁ク)小池 晃(同友)
木下實三(弁ク)田辺敏郎(同友)
須山佐一(弁ク)古谷史旺(同友)
中島 淳(弁ク)

総務委員会
委 員 長 五十嵐和壽(同友)
副委員長 中川裕幸(弁ク)
委 員 (弁ク) 柿本邦夫 山本晃司
廣田浩一 佐原雅史
(同友) 中村盛夫 松田克治
秋元芳雄 長内行雄

企画委員会
委 員 長 川俣静子(同友)
副委員長 山口義雄(弁ク)
委 員 (弁ク) 大淵美千栄 坂本清孝
金坂憲幸 金井英幸
(同友) 竹山宏明 崔 秀喆
広瀬 一 谷口 登

政策委員会
委 員 長 永井義久(弁ク)
副委員長 坂口信昭(同友)
委 員 (弁ク) 伊藤 進 木下實三
齋藤美晴 井上 一
山川茂樹 友野英三
(同友) 田辺敏郎 中澤健二
本田 崇 大塚明博
高野昌俊 小倉正明

役員協議委員会
委 員 長 伊藤 進(弁ク)
副委員長 中村盛夫(同友)
委 員 (弁ク) 下田容一郎 紺野正幸

研修委員会

委 員 長 長内行雄(同友)
副委員長 世良和信(弁ク)
委 員 (弁ク) 鈴木 知 山本 尚
美濃好美 塩野谷英城
(同友) 五十嵐和壽 伊賀誠司
丸山英一 杉本良夫

調整委員会

委 員 長 須山佐一(弁ク)
副委員長 磯野道造(同友)
委 員 (弁ク) 中山 清 絹谷信雄
木村高久 中島 淳
(同友) 佐々木功 中村政美
積田輝正 大貫和保

【平成15年度】

幹 事 長 伊藤 進(弁ク)
副幹事長 中澤健二(同友)
(政策、調整担当)
飯田昭夫(同友)
(企画、研修担当)
渡邊一平(弁ク)
(総務、役員協議、渉外担当)

幹 事 (同友) 中山伸治 大塚明博
中村盛夫 伊賀誠司
旦 武尚 高尾裕之
(弁ク) 牧 哲郎 山崎輝緒
真田修治 北村 仁
井上誠一 阪本清孝

監 事 松田克治(同友)木村高久(弁ク)

相 談 役 田中武文(同友)山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク)佐々木功(同友)
菊池新一(同友)原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク)米屋武志(同友)
佐藤孝雄(弁ク)小池 晃(同友)

木下實三(弁ク)田辺敏郎(同友)
 須山佐一(弁ク)中島 淳(弁ク)
 小林正治(同友)

総務委員会

委員長 齋藤美晴(弁ク)
 副委員長 松下 満(同友)
 委員 (同友) 神崎正浩 花村 太
 粕川敏夫 井澤 幹
 (弁ク) 鈴木 知 中川裕幸
 柿本邦夫 石崎 剛

企画委員会

委員長 本宮照久(同友)
 副委員長 水野 清(弁ク)
 委員 (同友) 長内行雄 新井 全
 小島 猛 西 和哉
 (弁ク) 内田和男 小川利春
 金坂憲幸 美濃好美

政策委員会

委員長 吉田芳春(同友)
 副委員長 永井義久(弁ク)
 委員 (同友) 磯野道造 小池 晃
 坂口信昭 原田信市
 竹内 裕 本田 崇
 旦 武尚 青山 仁
 (弁ク) 大橋邦彦 中島 淳
 三澤正義 井上 一
 保立浩一 服部雅紀
 今井孝弘

役員協議委員会

委員長 永井義久(弁ク)
 副委員長 杉本良夫(同友)
 黒田 壽(弁ク)
 委員 (同友) 天野 泉 大塚明博
 中村盛夫 松原 等
 (弁ク) 仁平 孝 川久保新一
 布施行夫 山川茂樹
 山本晃司

研修委員会

委員長 塩野谷英城(弁ク)
 副委員長 大賀眞司(同友)
 委員 (同友) 林 信之 高野昌俊
 石川 憲 中原文彦

(弁ク) 鈴木健治 佐原雅史
 西康二郎 田中ひろみ

調整委員会

委員長 天野 泉(同友)
 副委員長 中山 清(弁ク)
 委員 (同友) 吉田精孝 本田 崇
 山本彰司 磯野道造
 (弁ク) 絹谷信雄 土橋 皓
 紺野正幸 小田治親

【平成16年度】

幹事長 磯野道造(同友)
 副幹事長 須山佐一(弁ク)
 (研修、企画担当)
 永井義久(弁ク)
 (政策、調整担当)
 五十嵐和壽(同友)
 (総務、役員協議、渉外担当)

幹事 (弁ク) 保立浩一 山川茂樹
 内田和男 中川裕幸
 小川利春 笹井浩毅
 (同友) 竹内 裕 清水 修
 大貫和保 神崎正浩
 伊賀誠司 石川 憲

監事 小田治親(弁ク)大塚明博(同友)

相談役 田中武文(同友)山川政樹(弁ク)
 古谷 馨(弁ク)佐々木功(同友)
 菊池新一(同友)原田信市(同友)
 絹谷信雄(弁ク)米屋武志(同友)
 佐藤孝雄(弁ク)小池 晃(同友)
 木下實三(弁ク)田辺敏郎(同友)
 須山佐一(弁ク)中島 淳(弁ク)
 小林正治(同友)伊藤 進(弁ク)

総務委員会

委員長 米山淑幸(同友)
 副委員長 山川茂樹(会計担当)(弁ク)
 委員 (弁ク) 井上誠一 美濃好美
 茅野直勝 三谷 恵
 (同友) 花村 太 粕川敏夫
 神崎正浩 小島 猛

企画委員会

委員長 金坂憲幸(弁ク)
副委員長 新井 全(同友)
委員 (弁ク) 阪本清孝 北村 仁
阿仁屋節雄 柿本邦夫
(同友) 松下 満 西 和哉
旦 武尚 佐藤 陽

政策委員会

委員長 三澤正義(弁ク)
副委員長 飯田昭夫(同友)
委員 (弁ク) 亀谷美明 布施行夫
保立浩一 山川茂樹
伊藤 進 渡邊一平
(同友) 長内行雄 坂口信昭
中澤健二 坂本光雄
中村盛夫 成瀬重雄

役員協議委員会

委員長 中村盛夫(同友)
副委員長 土橋 皓(弁ク)
委員 (弁ク) 保立浩一 石川泰男
平山一幸 笹井浩毅
渡邊一平
(同友) 中里浩一 仁科勝史
杉本良夫 宮坂 徹

研修委員会

委員長 林 信之(同友)
副委員長 中川裕幸(弁ク)
委員 (弁ク) 鈴木 知 永岡重幸
鈴木 敦 岡田希子
(同友) 中村信彦 山田智重
大賀真司 井澤 幹

調整委員会

委員長 伊藤 進(弁ク)
副委員長 本田 崇(同友)
委員 (弁ク) 紺野正幸 中山 清
絹谷信雄 山川政樹
(同友) 小池 晃 吉田精孝
中山伸治 大橋 弘

【平成17年度】

幹事長 永井義久(弁ク)
副幹事長 吉田芳春(同友)
(研修、政策、
役員協議(後期)担当)
小川真一(同友)
(企画、
役員協議(前期)担当)
笹井浩毅(弁ク)
(総務、調整担当)

幹事 (同友) 新井 全 伊賀誠司
長内行雄 坂口信昭
坂本光雄 中村盛夫
(弁ク) 鈴木 知 堤 卓
中川裕幸 中山 清
布施行夫 山本晃司

監事 大塚明博(同友) 小田治親(弁ク)

相談役 田中武文(同友) 山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク) 佐々木功(同友)
菊池新一(同友) 原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク) 米屋武志(同友)
小池 晃(同友) 木下實三(弁ク)
田辺敏郎(同友) 須山佐一(弁ク)
中島 淳(弁ク) 小林正治(同友)
伊藤 進(弁ク) 磯野道造(同友)

総務委員会

委員長 金坂憲幸(弁ク)
副委員長 山崎高明(同友)
委員 (同友) 松下 満 杉本良夫
宮坂 徹 山田武史
安彦 元 関 昌充
(弁ク) 井上誠一 柿本邦夫
廣田浩一 三谷 恵

企画委員会

委員長 高尾裕之(同友)
副委員長 山口義男(弁ク)
委員 (弁ク) 阿仁屋節雄 井上誠一
(同友) 新井 全 杉本良夫
吉村俊一

政策委員会

委員長 川久保新一(弁ク)
副委員長 坂本光雄(同友)
委員 (同友) 坂口信昭 中村盛夫
成瀬重雄
(弁ク) 木下實三 中島 淳
井上 一 黒田 壽
山川茂樹 田中ひろみ

役員協議委員会

委員長 長内行雄(同友)
副委員長 紺野正幸(弁ク)
副委員長 菊池 徹(同友)
委員 (弁ク) 水野 清 服部雅紀
山川茂樹 山本晃司
(同友) 中澤健二 仁科勝史
伊賀誠司 崔 秀喆
小島 猛

研修委員会

委員長 小川利春(弁ク)
副委員長 林 信之(同友)
委員 (同友) 青山 仁
(弁ク) 北村 仁 永岡重幸
鈴木 敦

能力担保専門委員

(同友) 山本彰司 五十嵐和壽
本宮照久 中村信彦
(弁ク) 原田 寛 尾川秀昭
服部雅紀 河部秀男
赤羽良之

調整委員会

委員長 本田 崇(同友)
副委員長 渡邊一平(弁ク)
委員 (弁ク) 下田容一郎 川久保新一
(同友) 吉田精孝 丸山英一

【平成18年度】

幹事長 吉田芳春(同友)
副幹事長 三澤正義(弁ク)
(役員協議、政策担当)
長内行雄(同友)
(総務、調整担当)
井上誠一(弁ク)

(研修、企画担当)

幹事 (弁ク) 服部雅紀 金坂憲幸
川久保新一 小川利春
永岡重幸 美濃好美
(同友) 磯野道造 坂口信昭
小林正治 五十嵐和壽
小林 保 杉本良夫

監事 真田修治(弁ク) 大貫和保(同友)

相談役 田中武文(同友) 山川政樹(弁ク)
古谷 馨(弁ク) 佐々木功(同友)
菊池新一(同友) 原田信市(同友)
絹谷信雄(弁ク) 米屋武志(同友)
小池 晃(同友) 木下實三(弁ク)
田辺敏郎(同友) 須山佐一(弁ク)
中島 淳(弁ク) 小林正治(同友)
伊藤 進(弁ク) 磯野道造(同友)
永井義久(弁ク)

総務委員会

委員長 山崎高明(同友)
副委員長 美濃好美(弁ク)
委員 (弁ク) 今井孝弘 柿本邦夫
(同友) 山田武史 宮坂 徹
松下 満 杉本良夫
安彦 元 関 昌充

役員協議委員会

委員長 須山佐一(弁ク)
副委員長 磯野道造(同友) 紺野正幸(弁ク)
委員 (同友) 井澤 幹 菊池 徹
小島 猛 藤浪一郎
堂本 環 古川友美
丸山英一
(弁ク) 小川利春 金坂憲幸
塩野谷英城 布施行夫
山口義雄 山本晃司

研修委員会

委員長 成瀬重雄(同友)
副委員長 布施行夫(弁ク)
委員 (弁ク) 小川利春 長谷川靖
三谷 恵
(同友) 林 信之 中村信彦

山田 武史

企画委員会
委員長 永岡重幸(弁ク)
副委員長 粕川敏夫(同友)
(同友) 松下 満 花村 太
中原文彦
(弁ク) 柿本邦夫 阿仁屋節雄
山口義雄

政策委員会
委員長 崔 秀喆(同友)
副委員長 廣瀬隆行(弁ク)
委員 (弁ク) 保立浩一 笹井浩毅
鈴木喜三郎 田中ひろみ
井上 一 今井孝弘
岡田希子 奥田 誠
金坂憲幸 上條由紀子
茅野直勝 川久保新一
木下實三 小林 浩
佐成重範 永井義久
永岡重幸 服部雅紀
美濃好美 山本晃司
中島 淳 山川茂樹
(同友) 丸山英一 小林 保
小林正治 坂本光雄
本宮照久 菊池 徹
杉本良夫 坂口信昭

調整委員会
委員長 永井義久(弁ク)
副委員長 山本彰司(同友)
委員 (同友) 吉田精孝 丸山英一
(弁ク) 下田容一郎 川久保新一

【平成19年度】

幹事長 川久保新一(弁ク)
副幹事長 天野 泉(同友)
(20周年記念事業担当)
井上 一(弁ク)
(総務、政策、調整担当)
丸山英一(同友)
(企画、役員協議、
研修担当)

幹事 (同友) 坂口信昭 五十嵐和壽
坂本光雄 伊賀誠司
杉本良夫 中原文彦
(弁ク) 小川利春 井上誠一
塩野谷英城 永岡重幸
服部雅紀 三澤正義

監事 真田修治(弁ク) 大貫和保(同友)

相談役 (同友) 田中武文 佐々木功
菊池新一 原田信市
米屋武志 小池 晃
田辺敏郎 小林正治
磯野道造 吉田芳春
(弁ク) 伊藤 進 木下實三
絹谷信雄 須山佐一
永井義久 中島 淳
古谷 馨 山川政樹

総務委員会
委員長 中川裕幸(弁ク)
副委員長 中原文彦(同友)
委員 (同友) 旦 武尚 花村 太
小島 猛
(弁ク) 奥川勝利 茅野直勝

政策委員会
委員長 山本晃司(弁ク)
副委員長 本宮照久(同友)
委員 (同友) 坂本光雄 田中雅雄
崔 秀喆 山田武史
石川 憲
(弁ク) 保立浩一 廣瀬隆行
奥 和幸 住吉勝彦
田中ひろみ

役員協議委員会
委員長 小川眞一(同友)
副委員長 亀谷美明(弁ク)
委員 (弁ク) 平山一幸 布施行夫
柿本邦夫
(同友) 伊賀誠司 粕川敏夫
高尾裕之

調整委員会
委員長 渡邊一平(弁ク)

副委員長 山本彰司(同友)
委 員 選任なし

中原文彦 萼 経夫
松下 満 山木義明

研修委員会
委 員 長 米山淑幸(同友)
副委員長 今井孝弘(弁ク)
委 員 (弁ク) 絹谷晴久 須山英明
長谷川靖
(同友) 中村信彦 三島広規
小島 猛

監 事 真田修治(弁ク) 坂口信昭(同友)

相 談 役 (弁ク) 伊藤 進 川久保新一
木下實三 絹谷信雄
須山佐一 永井義久
中島 淳 古谷 馨
山川政樹
(同友) 磯野道造 菊池新一
小池 晃 小林正治
佐々木功 田中武文
田辺敏郎 原田信市
吉田芳春 米屋武志

企画委員会
委 員 長 菊池 徹(同友)
副委員長 山本寿武(弁ク)
委 員 (弁ク) 阿仁屋節雄 奥田 誠
鈴木喜三郎 山口義雄
(同友) 青山 仁 高尾裕之
本宮照久

総務委員会
委 員 長 中原文彦(同友)
副委員長 住吉勝彦(弁ク)
委 員 (弁ク) 鈴木 知 柿本邦夫
小國泰弘
(同友) 菊池 徹 宮坂 徹
山田武史

20周年記念事業実行委員会
委 員 長 永井義久(弁ク)
副委員長 伊賀誠司(同友)
部 会 長 〈式 典〉黒田 壽(弁ク)
部 会 長 〈祝賀会〉小川眞一(同友)
委 員 (同友) 伊賀誠司 新井 全
中村盛夫 崔 秀喆
粉川敏夫 杉本良夫
(弁ク) 茅野直勝 原田 寛
山口邦夫 中川裕幸
伊藤信和 柿本邦夫
鈴木 知

政策委員会
委 員 長 住吉勝彦(弁ク)
副委員長 本田 淳(同友)
委 員 (同友) 森 哲也 天野 泉
竹内 裕 小池 晃
古谷史旺 吉田芳春
丸山英一 山田武史
長内行雄 笹川 拓
関 昌充 笹野拓馬
(弁ク) 世良和信 川久保新一
井上 一 金坂憲幸
山本寿武 奥田 誠
伊藤信和 今井孝弘
上條由紀子 奥 和幸
恒川圭志 及川 周
國井久美子 森岡嗣象
高橋史保

【平成20年度】

幹 事 長 小川眞一(同友)
副幹事長 亀谷美明(弁ク)
(政策、役員協議担当)
中川裕幸(弁ク)
(研修、企画担当)
伊賀誠司(同友)
(総務、調整担当)

幹 事 (弁ク) 金坂憲幸 塩野谷英城
鈴木 知 永井義久
永岡重幸 三澤正義
(同友) 新井 全 坂本光雄

企画委員会
委 員 長 長内行雄(同友)
副委員長 瀧澤匡則(弁ク)
委 員 (弁ク) 加藤和孝 村井弘実

(同友) 菊池 徹 谷山尚史
井澤 幹

研修委員会
委員長 奥 和幸(弁ク)
副委員長 大塚明博(同友)
委員 (弁ク) 今井孝弘 加藤政之
石戸孝則

調整委員会
委員長 山本彰司(同友)
副委員長 三澤正義(弁ク)
委員 (弁ク) 下田容一郎 伊藤 進
(同友) 古谷史旺 丸山英一

役員協議委員会
委員長 保立浩一(弁ク)
副委員長 吉田芳春(同友)

【平成21年度】

幹事長 渡邊一平(弁ク)
副幹事長 本宮照久(同友)
(企画、研修担当)
山崎高明(同友)
(政策、役員協議担当)
黒田 壽(弁ク)
(総務、調整担当)

幹事 (同友) 新井 全 坂本光雄
松下 満 山木義明
菊池 徹 大塚明博
(弁ク) 小川利春 井上誠一
塩野谷英城 今井孝弘
山川茂樹 山口義雄

監事 坂口信昭(同友)
真田修治(弁ク)

相談役 (同友) 田中武文 佐々木功
菊池新一 原田信市
米屋武志 小池 晃
田辺敏郎 古谷史旺
小林正治 磯野道造
吉田芳春 小川眞一
(弁ク) 伊藤 進 川久保新一

木下實三 絹谷信雄
須山佐一 永井義久
中島 淳 古谷 馨
山川政樹

総務委員会
委員長 永岡重幸(弁ク)
副委員長 吉村俊一(同友)
委員 (同友) 青山 仁 笹川 拓
関 昌充
(弁ク) 山川茂樹 柿本邦夫
奥 和幸

政策委員会
委員長 森 哲也(同友)
副委員長 山本晃司(弁ク)
委員 (弁ク) 伊藤 進 井上誠一
及川 周 奥 和幸
川久保新一 川守田光紀
國井久美子 住吉勝彦
世良和信 永井義久
永岡重幸 山川茂樹
梶 俊和
(同友) 天野 泉 小川眞一
小池 晃 笹川 拓
笹野拓馬 関 昌充
竹内 裕 恒川圭志
古谷史旺 本田 淳
丸山英一 山崎高明
山田武史 吉田芳春

役員協議委員会
委員長 吉田芳春(同友)
副委員長 保立浩一(弁ク)

調整委員会
委員長 三澤正義(弁ク)
副委員長 山本彰司(同友)
委員 (同友) 天野 泉 古谷史旺
(弁ク) 伊藤 進 下田容一郎

研修委員会
委員長 中原文彦(同友)
副委員長 鈴木 敦(弁ク)
委員 (弁ク) 住吉勝彦
(同友) 山田武史

企画委員会
 委員長 梶 俊和(弁ク)
 副委員長 中原文彦(同友)
 委員 (同友) 井澤 幹 本田 淳
 (弁ク) 山口義雄 瀧澤匡則

(弁ク) 伊藤 進 内田和男
 永井義久 川久保新一
 井上誠一 永岡重幸
 奥 和幸 住吉勝彦
 梶 俊和

【平成22年度】

幹事長 亀谷美明(弁ク)
 副幹事長 田中雅雄(同友)
 山川茂樹(弁ク)
 吉村俊一(同友)

幹事 (同友) 大塚明博 坂本光雄
 山木義明 松下 満
 新井 全 菊池 徹
 (弁ク) 小川利春 岡本啓三
 井上誠一 山本晃司
 永岡重幸 今井孝弘

監事 坂口信昭(同友) 齋藤美晴(弁ク)

相談役 (同友) 原田信市 佐々木功
 磯野道造 菊池新一
 小池 晃 田辺敏郎
 古谷史旺 小林正治
 吉田芳春 小川眞一
 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
 絹谷信雄 伊藤 進
 須山佐一 中島 淳
 木下實三 永井義久
 川久保新一 渡邊一平

総務委員会
 委員長 住吉勝彦(弁ク)
 副委員長 本田 淳(同友)
 委員 松本一騎(弁ク)
 長野みか(弁ク)

政策委員会
 委員長 山本晃司(弁ク)
 副委員長 藤井稔也(同友)
 (同友) 天野 泉 竹内 裕
 小池 晃 古谷史旺
 吉田芳春 丸山英一
 山田武史 本田 淳

役員協議委員会

委員長 丸山英一(同友) (4/1～)
 副委員長 鈴木 知(弁ク)
 委員 (弁ク) 小國泰弘 絹谷晴久
 潮 太郎
 (同友) 中村盛夫 坂本光雄
 藤井稔也 林 信之
 笹川 拓 本田 淳

調整委員会

委員長 田辺敏郎(同友)
 副委員長 伊藤 進(弁ク)
 委員 山本彰司(同友)

研修委員会

委員長 今井孝弘(弁ク)
 副委員長 山田武史(同友)
 委員 中原文彦(同友)

企画委員会

委員長 佐尾山和彦(同友)
 副委員長 伊藤信和(弁ク)
 委員 (弁ク) 山本寿武 奥 和幸
 (同友) 菊池 徹 古川友美

【平成23年度】

選任なし

【平成24年度】

幹事長 古谷史旺(同友)
 副幹事長 中川裕幸(弁ク)
 山川茂樹(弁ク)
 小川眞一(同友)

幹事 (弁ク) 柿本邦夫 塩野谷英城
 絹谷晴久 木戸基文
 (同友) 大塚明博 坂本光雄
 山木義明 松下 満

新井 全 菊池 徹

吉田芳春 小川眞一

監 事 齋藤美晴(弁ク) 坂口信昭(同友)

相 談 役 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
絹谷信雄 伊藤 進
須山佐一 中島 淳
木下實三 永井義久
川久保新一
(同友) 原田信市 佐々木功
磯野道造 菊池新一
小池 晃 田辺敏郎
古谷史旺 小林正治
吉田芳春 小川眞一

総務委員会
委 員 長 中原文彦(同友)
副委員長 小國泰弘(弁ク)

その他の委員会については、立ち上げず

【平成25年度】

幹 事 長 丸山英一(同友)
副幹事長 中川裕幸(弁ク)
山本晃司(弁ク)
吉村俊一(同友)

幹 事 (弁ク) 木下實三 井上誠一
岸本達人 永岡重幸
滝澤匡則 野崎俊剛
(同友) 田中雅雄 山崎高明
山田武史 中原文彦
安彦 元 井澤 幹

監 事 坂口信昭(同友) 真田修治(弁ク)

相 談 役 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
絹谷信雄 伊藤 進
須山佐一 中島 淳
木下實三 永井義久
川久保新一
(同友) 原田信市 佐々木功
磯野道造 菊池新一
小池 晃 田辺敏郎
古谷史旺 小林正治

総務委員会
委 員 長 安彦 元(同友)
副委員長 滝澤匡則(弁ク)

政策委員会
委 員 長 永岡重幸(弁ク)
副委員長 山崎高明(同友)

役員協議委員会
委 員 長 井澤 幹(同友)
副委員長 井上誠一(弁ク)

調整委員会
委 員 長 木下實三(弁ク)
副委員長 田中雅雄(同友)

研修委員会
委 員 長 野崎俊剛(弁ク)
副委員長 山田武史(同友)

企画委員会
委 員 長 中原文彦(同友)
副委員長 岸本達人(弁ク)

【平成26年度】

幹 事 長 山川茂樹(弁ク)
副幹事長 青山 仁(同友)
(企画委員会、研修委員会)
井澤 幹(同友)
(役員協議委員会、調整委員会)
鈴木 知(弁ク)
(総務委員会、政策委員会)

幹 事 (同友) 丸山英一 山崎高明
笹川 拓 茜ヶ久保公二
岩田克子 本田 淳
(弁ク) 世良和信 渡邊一平
岸本達人 小國泰弘
梶 俊和 絹谷晴久

監 事 坂口信昭(同友) 真田修治(弁ク)

相 談 役 (同友) 原田信市 佐々木功

磯野道造 菊池新一
 小池 晃 田辺敏郎
 古谷史旺 小林正治
 吉田芳春 小川眞一
 丸山英一
 (弁ク) 古谷 馨 山川政樹
 絹谷信雄 伊藤 進
 須山佐一 中島 淳
 木下實三 永井義久
 川久保新一 渡邊一平

総務委員会
 委員長 塩野谷英城(弁ク)
 副委員長 本田 淳(同友)
 委員 (同友) 笹野拓馬 石井理太
 (弁ク) 柿本邦夫 飛田高介

政策委員会
 委員長 山崎高明(同友)
 副委員長 瀧澤匡則(弁ク)
 委員 (弁ク) 伊藤 進 永井義久
 渡邊一平 岸本達人
 岡田希子 永岡重幸
 小國泰弘 今堀克彦
 須山英明 奥川勝利
 内野則彰 岩田耕一
 富澤 正 野崎俊剛
 (同友) 竹内 裕 仁科勝史
 吉田芳春 長内行雄
 伊賀誠司 丸山英一
 山田武史 笹川 拓
 恒川圭志 石川 憲
 井澤 幹 笹野拓馬
 茂木康彦 大和田昭彦

企画委員会
 委員長 小田原敬一(弁ク)
 副委員長 岩田克子(同友)
 委員 (同友) 仲村圭代 駒場大視
 (弁ク) 奥川勝利 潮 太郎

役員協議委員会
 委員長 永岡重幸(弁ク)
 副委員長 茜ヶ久保公二(同友)
 委員 (同友) 田辺 恵 藤浪一郎
 徳増あゆみ 飯野智史

須田守一
 (弁ク) 船津暢宏 小國泰弘
 美川公司 梶 俊和

調整委員会
 委員長 丸山英一(同友)
 副委員長 伊藤 進(弁ク)
 委員 (弁ク) 船津暢宏 山本晃司
 (同友) 田中雅雄 粕川敏夫

研修委員会
 委員長 笹川 拓(同友)
 副委員長 三輪浩誉(弁ク)
 委員 (弁ク) 松本一騎
 (同友) 山田武史

【平成 27 年度】

幹事長 山本晃司(弁ク)
 副幹事長 永岡重幸(弁ク)
 (企画委員会、研修委員会)
 森 俊秀(同友)
 (総務委員会、政策委員会)
 石川 憲(同友)
 (役員協議委員会、調整委員会)

幹事 (同友) 小川眞一 山田武史
 吉村俊一 安彦 元
 本田 淳 大橋剛之
 (弁ク) 世良和信 渡邊一平
 岸本達人 小國泰弘
 梶 俊和 絹谷晴久

監事 真田修治(弁ク) 坂本光雄(同友)

相談役 (同友) 原田信市 佐々木功
 磯野道造 菊池新一
 小池 晃 田辺敏郎
 古谷史旺 小林正治
 吉田芳春 小川眞一
 丸山英一

(弁ク) 古谷 馨 山川政樹
 絹谷信雄 伊藤 進
 須山佐一 中島 淳
 木下實三 永井義久
 川久保新一 渡邊一平

山川茂樹

委員会

総務委員会

委員長 大橋剛之(同友)
副委員長 飛田高介(弁ク)
委員 (同友) 茂木康彦 陸名智之
(弁ク) 柿本邦夫 佐々木まどか

政策委員会

委員長 三輪浩誉(弁ク)
副委員長 本田 淳(同友)
委員 (同友) 坂口信昭 飯田昭夫
中村盛夫 伊賀誠司
関 昌充 井澤 幹
(弁ク) 伊藤 進 濱田百合子
松本一騎 熊井 寛
野崎俊剛 美川公司

企画委員会

委員長 安彦 元(同友)
副委員長 奥 和幸(弁ク)
委員 (同友) 徳増あゆみ 駒場大視
(弁ク) 柿本邦夫 永井 望

役員協議委員会

委員長 吉村俊一(同友)
副委員長 梶 俊和(弁ク)
委員 丸山英一(同友)

調整委員会

委員長 伊藤 進(弁ク)
副委員長 小川眞一(同友)
委員 (同友) 田辺敏郎
(弁ク) 船津暢宏 黒田 壽
瀧澤匡則

研修委員会

委員長 野崎俊剛(弁ク)
副委員長 山田武史(同友)
委員 (同友) 笹川 拓
(弁ク) 下田憲雅

弁理士連合クラブ会則

(昭和 62 年 9 月 29 日創立総会、即日施行)

第1章 総 則

(名 称)

第 1 条 ・ 本会は、弁理士連合クラブと称する。

(目 的)

第 2 条 ・ 本会は、知的財産権制度及び弁理士制度の改善と向上を図ることを目的とする。

(組 織)

第 3 条 ・ 本会は、第 2 条に掲げる目的に賛同する弁理士団体及びその団体に属する弁理士をもって組織する。

(事務所)

第 4 条 ・ 本会の事務所は、東京都に置き、その場所は幹事会が定める。

(入退会)

第 5 条 ・ 本会に入会し又は退会する弁理士団体は、入会届又は退会届を幹事会に提出し、その承認を得なければならない。

第2章 総 会

(総 会)

第 6 条 ・ 総会は、定時総会と臨時総会とする。
・ 定時総会は年 2 回 2 月、並びに 9 月又は 10 月に開き、臨時総会は随時開く。

(権 限)

第 7 条 ・ 総会は、次の事項を審議する。
1) 予算の議決及び決算の承認に関する事項
2) 会則の制定、変更又は廃止に関する事項
3) 役員、相談役及び顧問の選任に関する事項
4) 日本弁理士会役員候補の推薦に関する事項
5) その他、幹事会において総会に付することを相当と認めた事項

(召 集)

第 8 条 ・ 総会は、幹事長が召集する。
・ 総会招集通知には、会議に日時、場所及び会議の目的事項を示さなければならない。

(議長及び議事)

第 9 条 ・ 総会の議長は、幹事長をもってこれに充てる。
・ 議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決する。

第3章 役 員

(役 員)

第 10 条 ・ 本会に次の役員を置く。
1) 幹事長 1 人
2) 副幹事長 若干人
3) 幹事 若干人
4) 監事 若干人
幹事長は、日本弁理士会の会長又は副会長を経験した者でなければならない。
役員は、総会において選任し、その任期は、選任された年の翌年 1 月 1 日から 12 月 31 日までとする。

(幹事会)

第 11 条 ・ 幹事長、副幹事長及び幹事で幹事会を組織する。
・ 会務の執行は、幹事会がこれを決する。
・ 議事は、出席した副幹事長及び幹事の過半数をもって決し、可否同数のときは、幹事長がこれを決する。

第 11 条の 2 ・ 幹事長及び副幹事長で正副幹事長会を組織する。

(幹事長)

- 第12条
- ・ 幹事長は、幹事会を招集し、その議長となり、幹事会を統括する。
 - ・ 幹事長は、本会を代表する。
 - ・ 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故があるときは、弁理士登録の順序により幹事長の職務を代行する。

(報告等)

- 第13条
- ・ 幹事長は、委員会に出席して、会務の状況を報告し、又は意見を述べることができる。

(監 事)

- 第14条
- ・ 監事は、本会の財務を監査する。

第4章 委員会

(委員会)

- 第15条
- ・ 本会に次の委員会を置く。
 - 1) 総務委員会
 - 2) 政策委員会
 - 3) 企画委員会
 - 4) 役員協議委員会
 - ・ 幹事会は、必要に応じて特定の事項を行わせるため、特別委員会を置くことができる。

(委員選任)

- 第16条
- ・ 委員は、幹事会において選任する。
 - ・ 委員の任期は、選任された日から選任された年の12月31日までとする。ただし、特別委員会の委員の任期は幹事会が定める。
 - ・ 委員の任期が満了した場合においても、後任者が就任するまでは、なおその職責に任ずるものとする。

(正副委員長)

- 第17条
- ・ 委員会に委員長1人、副委員長若干人をおく。委員長及び副委員長は、毎年最初の委員会において委員が互選する。
 - ・ 委員長は、委員会を招集し、その議長となり、委員会を統括する。
但し、毎年最初の委員会は、幹事長がこれを召集する。
 - ・ 委員長は委員会を代表する。
 - ・ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、弁理士登録の順序により、委員長の職務を代行する。

(委員会の会議)

- 第18条
- ・ 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長がこれを決する。

(委員会の職務)

- 第19条
- ・ 各委員は、次の事項を行うことを職務とする。
 - 1) 総務委員会は、会員の連絡及び会議場所等の設営、会議の開催に関する事項、その他、他の委員会に属さない事項を行う。
 - 2) 政策委員会は、日本弁理士会の会務執行上の諸政策についての調査、研究に関する事項を行う。
 - 3) 企画委員会は、本会の運営の改善及び新規会員の増加策等の調査、研究並びに機関誌の編集、発行に関する事項を行う。
 - 4) 役員協議委員会は、日本弁理士会の役員選挙に関する事項を審議し、選挙運動の統括を行う。

第5章 相談役及び顧問

(相談役及び顧問)

- 第20条
- ・ 本会に相談役及び顧問をおくことができる。
 - ・ 相談役は、本会の幹事長を経験した者、日本弁理士会の会長又は監事長若しくは常議員会議長を経験した者の中から選任する。
 - ・ 相談役は相談役会を構成する。
 - ・ 相談役会は、会務について幹事長の諮問に応える。
 - ・ 相談役及び顧問の任期は、選任された日から選任された年の12月31日までとする。

第6章 会 計

(会計年度)

第21条 ・ 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(特別会計)

第22条 ・ 日本弁理士会の役員選挙に関する費用の支弁は、特別会計とする。

(経 費)

第23条 ・ 本会の経費は、本会の属する弁理士団体の分担金、寄付金その他の収入で支弁する。

(監査報告)

第24条 ・ 監事は、監査を定時総会で報告しなければならない。

第7章 規則の制定

(規則の制定)

第25条 ・ 幹事会は、会務の執行上必要と認めた場合には、幹事会の決議により規則を定めることができる。

第8章 会則等の改正

(会則の改正)

第26条 ・ 本会則を改正するには、総会出席会員の3分の2以上の同意がなければならない。

(規則の改正)

第27条 ・ 規則の変更又は廃止は、幹事会の決議により行われなければならない。

附 則

1. この会則は、昭和62年9月29日から施行する。
2. 昭和62年度の役員及び顧問の任期は、昭和62年9月29日から昭和63年3月31日までとする。
3. 昭和62年度の会計年度は、昭和62年9月29日から昭和63年3月31日までとする。
4. この会則の一部改正は、平成5年5月17日から施行する。
5. 平成5年度の相談役の任期は、平成5年5月17日から翌年3月31日までとする。
6. この会則の一部改正は、平成11年5月21日から施行する。
7. この会則の一部改正は、平成13年1月25日から施行する。
8. この会則の一部改正は、平成15年8月8日から施行する。
9. ①この会則の一部改正中第10条の規定は、平成16年9月22日から施行し、第6条、第16条、第20条、第21条の規定は、平成17年1月1日から施行する。
②平成16年度の会計年度は、平成16年4月1日から平成16年12月31日までとする。
③平成16年度の役員、委員、相談役及び顧問の任期は、平成16年4月1日から平成16年12月31日までとする。
10. この会則の一部改正は、平成19年2月27日から施行する。

弁理士連合クラブ慶弔規則

第1条(目的)

この規則は、弁理士連合クラブ(以下本クラブという)会員又は会員以外の弁理士の慶事、弔事、罹災等に関して、本クラブが祝意、弔慰を表わし、あるいは見舞いを行うに当たっての基礎を設けることを目的とする。

第2条

(1)慶事に関する祝意は下記の方法によって表わす。

(i)会員又は会員以外の弁理士が叙勲を受け、褒章を受章したときは祝電

(ii)会員が結婚したときは祝電

(2)会員の慶事に本クラブが招待されたときは、幹事会の決定に基づいて金員を贈り祝意を表わすことができる。

第3条

弔事に関する弔慰は下記の方法によって表わす。

(1)下記の者が死亡したときは弔電

(i)会員

(ii)会員以外の日本弁理士会会長又は副会長経験者

(2)下記の者が死亡したときは弔電のほか花輪、生花又は香典

(i)本クラブ幹事長又はその経験者

(ii)会員であって、日本弁理士会会長又は副会長又は監事長並びに常議員会議長若しくはそれらの経験者並びに日本弁理士会委員長の5回以上の経験者

(iii)会員以外の者であって日本弁理士会会長経験者又は現職の日本弁理士会会長又は副会長

第4条(罹災)

下記の者が、病気、怪我その他の事故等の罹災により、2ヵ月以上執務し得ないときは品物を送り見舞いの意を表わす。

(1)本クラブ幹事長又はその経験者

(2)会員であって、日本弁理士会会長又は副会長又は監事長並びに常議員会議長若しくはそれらの経験者並びに日本弁理士会委員長の5回以上経験した者

第5条(額の決定)

この規則における弔事に関し贈られる花輪、生花、香典及び見舞いのために贈られる品物の金額は、幹事会において予めこれを定める。

第6条(特 則)

この規則に定めない事項に関し、幹事会において慶弔の意を表わす必要があると特に認めたときは、幹事会の決定によってこれを行うことができる。

付 則

この規則は平成元年1月17日より施行する。

この規則の一部改正は平成13年1月25日から施行する。

「特別寄付金」を求めるときの 運用基準

(目 的)

第1条 この運用基準は、弁理士連合クラブ（以下、本会という。）の会務運営に必要な特別寄付金について定める。

(対象者)

第2条 特別寄付金を求める対象者は、日本弁理士会会長、同副会長、同監事長、同副監事長、同常議員会議長、同副議長、本会の幹事長、同副幹事長及びこれらの経験者（本会設立前の経験者を除く。）とする。

(基 準)

第3条 特別寄付金の基準は以下のとおりとする。

1. 日本弁理士会会長又は同経験者……………年 6 口
2. 同 副会長又は同経験者……………年 2 口
3. 同監事長又は常議員会議長若しくは同経験者……………年 4 口
4. 同副監事長又は副議長若しくは同経験者……………年 1 口
5. 本会の幹事長又は同経験者……………年 3 口
6. 同 副幹事長又は同経験者……………年 1 口

1口10,000円とする。但し、幹事会は諸般の事情を考慮して金額の増減を行うことができる。

(適用順位)

第4条 対象者が前条で定める基準に複数該当するときは、口数の最も多い方を適用する。

(求めの方法及び時期)

第5条 特別寄付金の求めは、年度初頭に定める本会予算に基づいて毎会計年度中に行うこととする。

第6条 この運用基準は、原則として満70歳以上の者については適用しない。

- 《注》・平成12年度第7回幹事会（平成12年12月21日開催）で決議
・平成12年度第2回総会（平成13年 1 月25日開催）にて報告
・平成12年度第8回幹事会（平成13年 3 月29日開催）で、第 6 条の追加を決議

編 集 後 記

機関誌『連合』No.27の発行にあたって、多くの先生方にご寄稿頂きました。誠にありがとうございます。特に、日本弁理士会会長の伊丹勝先生、日本弁理士クラブ幹事長の杉村純子先生、西日本弁理士クラブ幹事長の松村直都先生には、お忙しい中、弁理士連合クラブの旅行会にもご参加頂きました。深く御礼申し上げます。

平成28年度の弁理士連合クラブのテーマは、昨年度と同様に、「弁理士連合クラブの活動の充実」、「日本弁理士会への強力な支援」、「日本弁理士会の支援のための三派体制の確立」でしたが、なにより日本弁理士会会長選挙が大きな出来事でした。会長選挙に係る活動は、テーマの一つ「弁理士連合クラブの活動の充実」に関係するものであり、私個人としましては、弁理士業に関する政策的課題などについて深く勉強する機会となりました。選挙の準備を通じて日頃気が付いたことを諸先生方と意見を交わすことで、広く弁理士としての意識を高めることができたように思います。

今年度の親睦旅行会は佐賀県嬉野温泉で、目玉は長崎の軍艦島でした。首都圏からは距離がありましたが、多くの先生方に参加していただき、九州支部の先生方とも交流することができました。このような交流の機会が今後ますます重要になるのではないかと考えております。

今年度の旅行会の準備及び機関誌の発行に当たりましては、私の不手際により、諸先生方にご不便とご迷惑をおかけしてしまいました。この場を借りてお詫び申し上げます。また、企画委員会の活動においては、副委員長吉田倫太郎先生をはじめとする委員の皆様（小國泰弘先生、本田淳先生、下田憲雅先生、川崎ひかり先生）には、多大なるご協力を頂きました。さらに、石川憲幹事長、梶俊和副幹事長、山田武史研修委員会委員長にも多大なご尽力を頂きました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

（企画委員長 須山 英明）

弁理士連合クラブ会報
連 合

No.27

平成 29 年 1 月 31 日

発 行 弁理士連合クラブ
編 集 弁理士連合クラブ企画委員会
制 作 (株)文寿堂
Tel.03 (3948) 6631

弁理士連合クラブ